

第五十一回帝國議會
衆議院

勞働爭議調停法案(政府提出)外一件(勞働爭議調停法案(政府提出)治安警察法中改)委員會會議錄(速記)第二回

會議

大正十五年二月廿五日(木曜日)午前十時四十六分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 森田 茂君

理事 杉浦 武雄君

理事 安藤 正純君

理事 藏園三四郎君

理事 山口 政二君

高橋元四郎君

加藤 鯛一君

内ヶ崎作三郎君

比佐 昌平君

木暮武太夫君

山本 芳治君

山口 義一君

田中 隆三君

多木久米次郎君

谷原 公君

二月十六日委員河野曉君、戸田由美君

辭任ニ付其ノ補闕トシテ高橋元四郎君、大里廣次郎君ヲ同月十八日委員山

口義一君、河上哲太君、吉川吉郎兵衛君

辭任ニ付其ノ補闕トシテ山本芳治君山

口義一君、戸澤民十郎君ヲ同月二十日

委員松井郡治君辭任ニ付其ノ補闕トシ

テ山田又司君ヲ同月二十五日委員大里

廣次郎君辭任ニ付其補闕トシテ加藤鯛

一君ヲ就レモ議長ニ於テ選定セリ

二月十八日勞働組合法案(政府提出)ノ
審査ヲ本委員ニ付託セラレタリ

出席國務大臣左ノ如シ

內閣總理大臣 若槻禮次郎君

兼內務大臣

出席政府委員左ノ如シ

內務政務次官 俵 孫一君

內務參事官 鈴木富士彌君

內務書記官 赤木 朝治君

社會局長官 長岡隆一郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

勞働爭議調停法案(政府提出)

治安警察法中改正法律案(政府提出)

勞働組合法案(政府提出)

○森田委員長 ソレデハ是カラ開會致

シマス、御諮リヲ致シマスルガ、討議ノ

順序デアリマスガ、之ニ付キマシテハ勞

働爭議調停法案、治安維持法中改正法律

案、勞働組合法案、此三案ヲ一括致シマ

シテ議題ト致シマシテ、先ヅ最初ニ總論

ニ付テ質問ヲ爲シ、ソレヨリ各條ニ付テ

質問ヲスル、斯ウ云フコトニ致シタイト

思フノデアリマス、サウシテ質問ノ順序

ハ是非公式ニ御話モアッタヤウデアリ

マスルガ、普通ノ會議ニ於キマシテハ其

順序ガ、憲政、政友、政友本黨、ソレカラ

又憲政、政友、政友本黨、斯ウ云フヤウナ

工合ニ進ンデ居ルデアリマスガ、本案

ニ付キマシテハ憲政會ニ於テ敢テ先ヘヤ

アリマスルカラ、先ヅ政友會ノ諸君ニ
願ヒ、次ニ本黨、新正俱樂部、其次ニ
憲政會ガ質問ヲスルコトニ致シマシ
テ、先ヅ最初ハ此順序デ進メタイト思
フデアリマスガ、此點ニ御異議ハア
リマセヌデセウカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○森田委員長 御異議ガナイト認メマ

ス、然ラバ其順序ニ依テ進行ヲ致シマス

○清瀨委員 此三案ハ所謂勞働法ト稱

セラル、モノデ、政府ノ二大政策ノ其

一デ、財政計畫ト相並ンデノ大法デアリ

マスガ、今委員長ノ御宣言ノ通りニ先

ヅ大方針ニ付テノ質問應答ガ第一デア

ルト思フデアリマスガ、冀ハクハ國

務大臣ノ出席ヲ得テ大方針ニ付テ審議

ヲ致シタイ、シマヒニハ字句ノ修正マ

デノ必要ガアラウト思ヒマスガ、サ、

ヤカナコトデアリマスガ、他ノ法規

等ニ抵觸ノ點モ二三アルト思ヒマスノ

デ、ソレ等ノ點ハ其處ニ居ラル、鈴木

君トカ、勞働法ニ付テ堪能ナ社會局ノ

長官ト膝ヲ交ヘテノ御話モアリマセウ

ガ、大體方針ニ付テハ何卒國務大臣ノ御

出席ヲ願ヒタイト思フデアリマス、モ

ウ一ツハ今參考書ガ配付ニナリマシタ

ガ、外國ノ立法例ヤ勞働者ノ數ナドガ

此處ニアリマスガ、日本特有ノ勞働狀

態ニ付テノ立法ヲスルニ付テハ、何ハ

諸措イテモ日本ノ勞働組合ノ現狀ヲ知
リタイト云フノハ外デモナイ、日本ニ
ハ四百九十乃至六百程ノ勞働組合ガア
リマシテ、一々其組合ニハ綱領モ持チ又
會ノ形體即チ規約モ持ッテ居ルデアリ
マスガ、此組合法デハ勞働條件ノ維持
改善ト云フコトヲ本旨トシテ居ラル、
ヤウデアリマスケレドモ、多數ノ日本
ノ勞働組合ガ果シテ維持改善ノ組合デ
アルカ、進ンデハ現代的ノ社會改造ヲ
目標トスルヤウナモノデハナイカ、日
本六百ノ組合ガ五百九十マデ維持改善
ノ範圍ヲ出デタ組合デアルノニ、衆議
院ダケガ維持改善ノ組合ヲ造ッタ所デ
仕方ガナイ話デアル、ソレカラ日本ノ大
組合ト云フモノガ總テノ勞働者ヲ合同
スル職業組合デモナク、産業組合デナ
イニ拘ラズ、衆議院ガ職業組合ノ型ヲ
造ッタ所ガ、男ノ子供ガ出來タノニ女ノ
著物ヲ造ルヤウナモノデアリマスガ故
ニ、何ハ諸措イテモ我國ノ勞働組合ノ
狀況ヲ明瞭ニスル、具體的ニ云ヘバ現
存組合ノ綱領規約、是等ノモノヲ必ズ御
調査ニ相成ッテ居ルコト、思ヒマスガ故
ニ、編纂ノ上御提出ヲ願ヒタイ、モウ一
ツハ我國ハ組合ハ自由デ、憲法ニモ組
合ノ自由ガ認メテアル、又外國ト條約
ヲ致シマシタ巴里平和會議ニ於テモ、
結社ノ自由ト云フモノハ承認シテ居リ

マスガ、奈何セン府縣知事ガ組合ノ自由ヲ妨害スル法規ヲ立テ、居リマス、各府縣ノ警察犯トシテ勞働者ガ組合テ居ルト云フ爲ニソレニ罰金ヲ科スル、共同シテ賃銀ノ値上ヲスルト云フト、ソレハイケナイト云フノガ、私ノ力デ以テ調査シタモノモ二、三アリマスガ、斯様ナルモノガ存在スル以上、又彼ノ明治二十三年法律第八十四號、行政權ニ刑罰ヲ委任シテ居ルト云フコトガアリマス以上ハ、組合法ハ如何ニ形好ク作ラレマシテモ實行ノ上ニ於テ困難ヲ來スコト、思ヒマス、是等ノ地方法規ニ於テ、組合ニ關係スルヤウナモノガ必ズアルノデアリマスカラ、ソレニ付テ御編纂ノ上御提出ヲ願ヒタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○森田委員長 只今清瀨君ノ議事ノ進行ニ關スル御意見ガアリマシタガ、之ニ對シマシテ政府委員ノ御答ヲ願ヒタイト思ヒマス

○俵政府委員 今清瀨君ノ御話ハ何レモ御尤ト考ヘマスガ、第一ノ國務大臣ノ出席デアリマスガ、御承知ノ通りニ内務大臣ハ總理大臣トナラレタノデアッテ、總理大臣トシテノ仕事ガアリマシ外ニ、丁度今貴族院デ税制案ノ上程ニナツテ居ル、本日から質疑ガ始マッタノデ、内務大臣ノ資格ニ於テハ地方税制ノコトデ簡單デアリマスケレドモ、總理大臣ノ資格ニ於テ登院サレテ居ルノデアリマス、ソレデ大體ニ付テノ御質

問ヲ私共デ答辯ノ出來ル部分ハ答辯致シマスシ、答辯ノ出來ナイ部分ハ或ハ午後ナリ、何時カ貴族院ノ方ノ都合ヲ見計ッテ御出席ヲ願ッテ御答スルコトニ致シタラドウデアリマセウカ、尙ホ實ハ最初カラ國務大臣トシテ御出席ニナルヤウニト云フコトデ、私共ハ御都合ヲ聞イテ見タノデアリマスケレドモ、今申スヤウナ事情デ以テ、午前ハドウシテモイケナイト云フコトデアリマス、或ハ午後ニハ一寸デモ御出席ヲ願ヘルヤウニ御話シテ見タイト考ヘテ居リマスガ、吾ミデ御答出來ル部分ハ吾ミデ御答スルト云フ風ナコトニシテ戴クヤウニ御願シタイト思ヒマス、ソレカラ第二ノ問題ニ付キマシテハ勿論御説ノ通り組合ノ現狀ヲ御調べニナルコトハ最モ必要デアアル、是ハ其調べモアルノデアリマスガ、餘程澤山ナモノニナル、或ハ要領ヲト云フコトナラバ要領ノ調べモ出來マセウガ、是ハ書類ヲ携帶シテ御必要ニ依テソレヲ御示ヲ爲シ、或ハ要領ヲ作ルコトニ致シタイト思フノデアリマス、ソレカラ第三ノ府縣令ニ於テ組合法ノ精神ニ反スルガ如キ規定ガアルト云フコトデアリマスガ、ソレハ成程アリマセウ、是ハ又更ニ組合法ノ成立ノ曉ニ於テ十分ニ取調ベマシテ衝突スル分ニ付テハ十分改廢スル外仕方ガアリマセヌ、其様ナ御積リデーツ此法案ノ御審議ヲ願ヒタイ

○清瀨委員 今政友會ノ方ハソレデ質問ヲ始メルト云フコトデアリマスカラ、其點ハ宜シウゴザイマス、ソレカラ我國ノ勞働組合ノ現狀デアリマス、是ハ何卒相當ナ程度ニ於テ至急御編纂ノ上御廻シヲ願ヒタイ、今ノ御話デハ澤山ニナルカラ連モ出來ナイト仰シタルガ、其澤山ノモノヲ委員會ナリ、政府委員室ナリニ御携帶下サレバ委員ハソレニ就テ調査ヲ致シマス、重要ナ點、或ハ我國ニ於テ彼ノ總同盟ハドウ云フ綱領ヲ持ッテ居ルカ、或ハ評議會ハドウ云フ綱領ヲ持ッテ居ル、ドウ云フ規約ヲ持ッテ居ルト云フ重要ナル點ニ付テハ、私共モ大分印刷物デ研究ヲ致シテ居リマスガ、總テノモノガ承知ノ上デ之ヲ前提トシテ私ハ討議ヲシタイト思フ、外國ノ法律ハ古イ法律デアリマス、英吉利ノヤウナ國ノ法律デモ、法律自身ハ非常ニ古イモノデアアル、二十年モ前ノモノデアアル、戰爭以後ノ組合ニ適スルヤウナ法律ハ世界ニナイ、現實ノ日本ノ組合ト云フモノヲ研究シテ見タイト思ヒマスカラ、矢張重要ナモノハ御配付ヲ願ヒタイト思フ、些細ナモノハ此方カラ拜見ニ上リマス、ソレカラ知事ノ出シテ居ル命令デ、此組合ノ成立ニ害ヲ爲スモノガ分ッテ居ル程度ニ於テ、ドウ云フコトヲヤッテ居ルカ御出シヲ願ヒタイノデアリマス、ソレガ矢張勞働組合ヲ何故ニ造ラナケレバナラヌカト云フコトニナルノデアアル、他ノ國デハ法律ナリ、慣習法デ組合ヲ禁ジテ居ルカラ、

之ヲ公認スル爲ニ勞働組合法ガ要ル、英吉利デモ、佛蘭西デモ、其通りデアアル、日本デハ法律ニ於テハ公認シテ居ルケレドモ、事實ニ於テ各府縣令デ以テ組合ヲ妨害スルカラ、此處デ勞働組合法ト云フモノヲ作ル、命令デ法律ヲ改廢シテ居ルヤウナモノヲ取ッテ置イタナラバ、ドンナ官僚的ノ知事ガ行ッテモ組合ヲ公認サレルト、丁度英吉利ノ慣習法ガ徒黨法デ組合ヲ排斥シタ、佛蘭西デ「ル、シヤプリエ」法ヲ排斥シタヤウニ、日本デハ知事ノ官僚的ノ命令ヲ排斥スルノガ目的デアリマスカラ、行政權デ發布サレタモノガ組合ノ主義ニ反スルヤウナ法規ハ一應拜見シテ置キタイト思ヒマス、分ル程度デ御提出ヲ願ヒマス

○長岡政府委員 只今ノ御注文ノ材料デゴザイマス、第三ノ府縣令ノ規定ノ方ハ材料ガゴザイマスカラ、是ハ印刷シテ一兩日中ニ差上ゲマス、但シ第二ノ御注文、是ハ數百ノ組合ノ規約綱領ガ千差萬別デ、之ヲ分類編纂スルコトハ困難デアリマス、ソレデ企業別組合ガ幾ツ、職業別組合ガ幾ツ、產業別組合ガ幾ツ、之ニ依ラザル合同的ノモノガ幾ツト云フヤウナ數ナラバ編纂シテ差上ゲマスガ、組合ノ規約綱領ヲ分類スルコトハ出來マセヌ、臺帳ヲ政府委員室ヘデモ持ッテ來マシテ、御希望ノ方ニ御閱覽ヲ願フカ、或ハモット御譲リヲ願ッテ、臺帳ノアル部屋ヘ御出ヲ願ヘバ尙ホ結構デ

アリマス

○清瀬委員 私ノハ分類編纂ニ重キヲ

置イテハ居リマセヌ、ソレカラ何ガ

幾ツト云フ數モ必要デスケレドモ、左

様ニ重キヲ置イテハ居リマセヌ、我國

ニ六百組合ガアツテモ、重要ナ人ノ知ッ

テ居ルモノハ僅カデアリマス、極言ス

レバ五ツカ六ツト思ヒマス、サウシテ綱

領ト云フモノハ一箇條カラ五箇條マデ

シカ、政黨ノ宣言ノヤウナモノガ是バ

カリノモノデス、ソレ等ノモノヲ例ヘ

バ總同盟ハドウ云フ形體ヲ持ッテ居ル、

會則ガ一條カラ三十條マデ、機械聯合

ハドウ云フ規約デ、綱領ハ五箇條デ、是

レノト云フ標準的ノモノヲ七ツカ八

ツ十程出セバ分ルト思ヒマス、サウシ

テソレヲ政府委員室マデ御持ヲ願ヒマ

ス

○長岡政府委員 ドウデゴサイマセ

ウ、只今ノハ勞働代表選出ニ參加シマ

シタ主ナ組合ダケデハ

○清瀬委員 其程度ニ願ッテ置キマス

○安藤委員 大臣ノ御出席ヲ望ムノデ

スガ、殊ニ初メノ質問ハ勞働法ノ總體

ニ付テ質問致シタイト思ヒマスカラ、

成ベク大臣ノ御出席ヲ望ミマス、大

變審議ガ遅レマスシ、且ツ貴族院ノ稅

制案ノ終ルノヲ待ッテ居リマスト大變

デスカラ、初メノ質問ハ政友會デスガ、

質問ヲ始メルコトニ致シマスカラ政府

委員ノ方カラ御答ヲ願ヒマシテ、尙ホ大臣

カラ直接答辯ヲ得タイ點ハ大臣ノ御出

席ヲ願フコトニシタイ、其上デ是カラ

質問ヲ始メヤウト思ヒマス

○本暮委員 質問ニ入りマス前ニ參考

材料ノコトヲ一言申上ゲテ置キマス、

勞働爭議ノ中デ同盟罷業ノ價值判斷ヲ

爲ス場合、一番必要ナコトハ同盟罷業ニ

因リマシテ勞働者ノ消失スル賃銀、即

チ喪失日數ト云フモノガ社會功利ノ上

カラ見テモ、國民經濟ノ上カラ見テモ、

一番重大ナ問題デアリマス、獨逸ニシ

テモ英國ニシテモ大分此點ハ詳シイモ

ノガ出來テ居リマスガ、此問題ヲ考究

スル上ニ於テ今申上ゲタ材料ヲ各年別

ニ依リ、或ハ各件別ニ依テ御調査ノ上

統計表ヲ戴キタイ、ソレカラモウ一ツ

同盟罷業ガ勞働者ノ成功ニ歸シタ場合

ト、ソレカラ雇主ノ成功ニ歸シタ場合

ト、全然解決ヲセズニ終ッタ場合ト、妥協

ニ依テ解決シタ場合、此四ツノ場合ニ

付テ同盟罷業ノ結果ノ成敗利鈍ノ跡

ヲ、矢張我國ナドデハ統計ガ取ッテアリ

マス、是モ爭議調停法ヲ攻究スルニ必

要デアリマスカラ、之ヲ出シテ戴キタ

イ

○長岡政府委員 只今ノ喪失日數ノ調

ハアリマス、ソレカラ罷業ノ結果ニ付

テノ調べモアリマスガ、賃銀ノ調べハ

アリマセヌ、大體日數ニ平均賃銀デモ

掛けテ差上ゲル外ナイト思ヒマス

○本暮委員 ソレデ宜シウゴザイマ

ス、私ハ同僚諸君ノ御諒解ヲ得テ、先ヅ

第一二三案ニ共通シテ居ル問題ニ付テ

各派ノ人ガ大體質問ヲ一順シテ、サウ

シテ各案ニ付キマシテハ私ノ方ノ山本

君カラ大臣ニ質問スルト云フ御諒解ヲ

得マシテ大體ノ質問ヲ致シマス、第一

ニ此勞働立法ノ評判ガ、政府ノ保護ノ

對象物トシテ居ル勞働組合ノ諸君ニ依

テ可ナリ激烈ナ反對ヲサレテ居ルニ拘

ラズ、強ヒテ此際御出シニナルニ付テ

ハ、政府ニ於テ反對シテ居ル組合ノ外

ニ、暗黙ノ間ニ政府ノ提案ヲ喜ンデ居ル

ヤウナ勞働者モ或一部ニアルト云フコ

トヲ前提トシナケレバナラス、吾々ハ

ソレデナケレバ理解スルコトハ出來ナ

イノデアリマス、若シモ斯ウ云フコト

ガナカッタナラバ、唯徒ニ憲政會在野當

時ノ御主張ト云フモノニ忠實ナラント

シテ、事ヲ好ミ名ヲ求メ、法律ヲ濫用ス

ルト云フヤウナ結果ヲ生ジヤシナイカ

ト云フコトヲ私共心配シテ居ルノデア

リマス、殊ニ御承知ノ通り本會議ニ於

テモ質問サレタ方ガアリマスガ、普通

選舉ガ近ク施行サレルノデアリマスガ

ラ、普選施行ヲ待チマシテ、議會ト云フ

モノニ勞働代表ノ方々ノ思想感情ト云

フモノガ反映サレマシタ點ニ於テ之

ヲ決定スルト云フコトガ、妥當デハナ

イカトモ考ヘラレル、殊ニ今度提案ニ

ナリマシタ所ノ爭議調停法ノ如キニ於

テハ、之ヲ完全ニ運用致シマシテ、政府

ノ趣旨ノ達成ヲ求メルニハ、勞働者側

ノ人々ノ此法律ヲ尊敬シテ、此決定ニ

對シテ十分ナル遵奉ノ考ト云フモノガ

ナケレバ、此法律ノ完全ナル運用ヲ見

ルコトハ出來ナイ、ソレニハ唯勞働者

ニ別ニ關係ノナイ方々ノ居リマスル議

會デ議シマシタヨリモ、勞働者ノ意思

感情ヲ反映スル議會ニ於テ之ヲ決定致

シマシタ方ガ、勞働者ノ人モ之ヲ尊敬

シテ遵奉シ、サウシテ爭議調停ニ依ル

決定ヲシテ有意義ナラシムルト云フ結

果ニナリハシナイカト思ヒマス、殊ニ

爭議調停法ト云フモノハ、政府ノ御提

案ニ依リマス、其決定ニハ強制權ガ

ナイノデアル、是ハ一般ノ輿論ノ勢力

ニ依テ、此決定ヲ兩者ガ遵奉シテ貫フ

ト云フヤウナ總理大臣ノ御意嚮デア

ナラバ、尙更此爭議調停法ニ依ル所ノ

決定ガ效力ヲ持ツト云フコトニ、當事

者殊ニ勞働者側ニ於ケル此決定ニ對ス

ル尊敬ト真心、遵奉心ガ其前提トナラ

ケレバナラス、此決定ニ對シテ勞働者

ガ遵奉シ、尊敬シテ行クト云フコトニ

ハ、勞働者ノ思想感情ヲ反映セシメル

普選後ノ議會デ決定スルト云フコト

ガ、極メテ穩當デハナイカト考ヘマス、

殊ニ勞働爭議調停法ト云フモノハ、唯

爭ヒニナッタ所ノ兩者ガ此決定ヲ遵奉

スルト云フダケデハ、其效果ト云フモ

ノハ甚ダ薄イ、一度爭議調停法ニ依テ

決定サレマシタ決定ト云フコトガ、一

ノ勞働者ト僭主トノ間デ認めラレテ、

ソレヲ他ノ同種ノ事業ニモ、サウ云フ

決定事項ヲ及ボスト云フコトニ於テ、

調停機關ナリ、仲裁機關ナリノ、値打ハア

ル、斯ウ云フコトヲ考ヘテ見マスルナ
ラバ、丁度「ニュージランド」ニ於ケル
所ノ仲裁ガ洵ニ圓滿ニ往ッテ居ル、其決
定ガ遵奉サレテ居ルト云フコトヲ考ヘ
テ見マシタナラバ、此勞働者側ニ於ケ
ル此決定ニ對スル尊敬ノ念、眞心、遵奉
ノ觀念ト云フモノハ何處ニ在ルカト云
ヘバ、勞働者ノ代表者ガ議會ニ出テ、彼
等ノ背後ニ在ル多數ノ勞働者ノ思想感
情ト云フモノヲ反映シテ、此所デ極メ
タモノナラバ、自分達ノ代表者ガ出テ
極メタト云フノデ、此勞働爭議調停法
ト云フモノハ、總テノ勞働立法ニ對シ
マシテ十分ナル敬意ト遵奉ノ志ヲ持ッ
テ、完全ニ政府當局ノ御考ニナルヤウ
ナ趣旨ガ達成サレルト考ヘマス、斯ウ
云フ見地カラ見マシテ、何故ニ當事者
側、殊ニ政府ガ個々ノ對象物トシテ居
ル勞働者ノ反對ガアルニ拘ラズ、強ヒ
テ之ヲ今直ニ議セントスルノ考、モウ
一ツハ普選ガ斷行サレタル議會ニ於テ
之ヲ爲スト云フコトヲセズニ——サウ
シタ方ガ勞働立法ノ精神ヲ完全ニ達成
スル上ニ於テモ都合ガ好イニ拘ラズ、
此事ガナイト云フノハドウ云フ理由デ
アルカ、此點ニ付テ明確ノ御答辯ヲ得
マセヌト、此提案ガ何カ黨略ノ爲ニデ
モ提案サレルガ如クニ非難ヲ受ケル
ト云フコトハ、御互ニ是ハ殘念ノコト
ト思ヒマス、一言質問致シマス

○俵政府委員 只今ノ木暮君ノ御質問
ハ要スルニ政府ガ勞働立法ヲ此際出シ
タト云フ理由ハ、ドウデアアルカト云フ
コトニ歸スルヤウデアリマスガ、其御
議論ノ中ニ此組合法其他勞働立法ノ法
案ハ、勞働者ノ反對ガアルニ拘ラズ出
シタト云フコトハ、何等カ勞働者ノ中
ノ一部分ニ多少ノ同意者ガアルガ如キ
コトハナイカドウカ、サウ云フ自信ヲ
持ッテ出シタノデハナイカト云フガ如
キ御話ガアリマシタガ、政府ニ於テ今
回勞働立法ヲ提案シタコトニ付キマシ
テハ、成程勞働者ノ方ノ側ニ於テ之ニ
對スル反對モアリマス、併シ此提案ヲ
スルニ付テ、必ズシモ勞働者其モノニ
同意不同意ヲ豫メ尋ネテ然ル後ニ提案
ヲスルガ如キ手續ハ執リマセナカッタ
ハ、ソレハ相當ノ機關ニ諮詢ヲシ、諮
問ヲ致シマシテ、其結果ニ於テ立案ヲ
致シマシタガ、敢テ特ニ勞働者側ニ諒
解ヲ求メル手續ハ執リマセナカッタノ
デアリマス、隨テ勞働者ハ之ニ對シテ
或部分ノ諒解ヲシタト云フヤウナコト
ハ敢テアリマセヌ、今回提案シマシタ
ノハ、既ニ本會議ニ於キマシテ大臣モ
御説明申上ゲマシタ通り、今ガ最モ勞
働立法ノ提案ニ付テ適當デアルト信ジ
タカラデアリマス、成程普選施行後ノ
勞働者側ノ代表ガ出タ後ノ議會ニ提案
シタラドウカト云フコトノ御意見ハ、
是ハ御尤モナ點モアリマスガ、必ズシ
モ普選施行後ノ議會ニ提案ヲシナケレ
バナラヌト云フコトハ實ハ考ヘテ居マ

セヌ、其點ニ付テハ聊カ木暮君ノ御意
見ト政府ノ見ル所ハ違ッテ居ルノデア
リマス、即チ勞働立法ハ普選後ニ必ズ
シナケレバナラヌトハ信ジナイ、成程
勞働立法、殊ニ勞働爭議調停法ノ如キ
モノハ、勞働者側ノ十分ナル諒解ヲ得
ルト云フコトハ無論決シテ必要デナイ
トハ考ヘマセヌガ、併ナガラ御承知ノ
通りニ勞働立法ト云フモノハ、一面ニ
於テハ勞働者其モノ、地位ノ向上、維
持改善ヲ主トスルノデアリマスガ、他
ノ一面ニ於テハ、要スルニ日本ノ産業ノ
發達ノ爲ニ現時ノ狀態ニ於テドウシテ
モ此勞働組合法ナリ、勞働爭議調停法
ヲ作ル必要ガアルト云フ現時ノ産業
狀態若クハ社會狀態カラ出發シタ勞働
立法ノ必要ヲ認メテ居ルノデアリマス
カラ、唯單ニ勞働者ノ諒解ヲ得ルト
云フノミヲ——無論必要デアアルガ、
勞働者ノミノ諒解ヲ得レバ宜シイトハ
行カナイ、一面ニ於キマシテハドウシ
テモ矢張此組合法ナリ、其他勞働爭議
調停法ノ實行セラル、コトハ、成程勞
働者ノ諒解モ必要デアアルガ、同時ニ資
本家側ノ諒解モ必要デアアル、之ヲ詰リ
約メテ申シマスルナラバ、國民ノ諒解
ヲ要スルト云フコトガ最モ適當ナル言
葉デアラウト思フノデアリマス、而シ
テ政府ハ今回提案ヲシタ此法案ハ、成
程勞働者ニモ反對ガアリマセウガ、此
反對ハ必シモ其總テガ正當ナル理由ニ
基ク所ノ反對デアルトハ私ハ信ジナ

イ、中ニハ餘程誤解カラ反對シテ居ル
部分モアルデアラウト思フ、此誤解ニ
基ク所ノ反對ハ、十分ニ議會ニ於テモ
説明ヲ重ネ、質問應答ヲ重ネテ、願クバ
勞働者側諸君ニ於キマシテモ、此議會
ノ應答ヲ通ジテ十分ニ此案ノ精神ノ御
諒解ヲ受クルコト、存ジマスルガ、今
申シマスルガ如ク、ソレニハ單リ勞働
者側ノ諒解ダケデハナイ、一般ノ資本
家側ニ付キマシテモ、又一般國民ノ御
諒解ヲモ得ナケレバナラヌノデアリマ
ス、即チ議會ノ協賛ヲ得テ、諸君ノ十分
ナル御審議ノ下ニ於テ、今ノ提案ノ精
神、立法ノ精神ヲ十分ニ總テノ階級ノ
國民諸君ニ向ッテ御諒解ヲ得ルコトニ
努メタイト思フノデアリマス、ソコデ
今回ノ提案ハ、黨略トカ云フガ如キコ
トニハ決シテ拘泥シナイ積リデアリマ
ス、即チ政府ハ出來ルダケ此提案ノ趣
意ヲ一般ニ御諒解ヲ願ヒ、而シテ後ニ
此提案ノ成立ヲシタイト希望シテ居ル
ノデアリマス、又提案ノ時期ニ付キマ
シテハ、只今申シマスル如ク、現時ノ産
業ノ狀態、現時ノ勞働者、資本家側ノ狀
態ニ照シマシテ、極メテ緊要デアルト
云フ精神カラシテ提案シタ譯デアアル
デアリマス

○木暮委員 ドウモ只今ノ御説明デ
ハ、急速ニ、今現ニ強ヒテ出サナクテハナ
ラナイト云フ御理由ヲ知ルコトニ寔ニ
乏シイカト私ハ考ヘテ居リマス、殊ニ
只今ノ政務次官ノ御答辯ノ中ニ、國民

全體ノ諒解ヲ得ルコトガ此法案ヲ作ルノニ必要ダト云フ御意見デアリマスガ、サウ致シマシタナラ、尙更今日ノ代議制度、議院政治ニ於テハ國民全體ノ諒解ヲ求ムルト云フコトハ、衆議院ノ意嚮ト云フモノヲ經マセヌデハ、此國民ノ全體ノ意嚮ト云フモノヲ知リ、諒解ヲ求ムルト云フコトハ困難デアアル、而モ現在ノ議員ト云フモノハ三百五十萬ノ代表者ニ過ギズシテ、今ノ俵サンノ御意見ノヤウニ國民全體ノ諒解ヲ得テ勞働立法ヲスルト云フコトガ必要デアルト云フコトガ眞實ト致シマスレバ、尙更ノ事千二百萬人ノ代表者ヲ以テ構成スル所ノ、國民大多數ノ感情意思ヲ反映スル普選後ノ議會ヲ利用シテ、是ニ提案シテ慎重審議スルト云フコトガ、貴方ノ御意見カラ言ヘバ却テ私ガ申シタ普選後ノ議會ニ提案スルト云フコトガ適當デアルト云フコトヲ裏書スルモノデハナアカト考ヘテ居ル、此點ハ議論ニナリマスカラ強ヒテ申上ゲマセヌ、更ニ勞働者ノ側ニ於テ反對シテ居ルト云フコトハ、是ハ誤解デアルト云フ御考、本案ヲ審議シテ居ル中ニ段々ト御諒解ガ付クデアラウト思フ、斯ウ云フ御意見デアリマスルガ、既ニ本會議ニ於テ質疑應答ヲ重ネタ、是位ノ程度デ考ヘテモ亦誤解ガアル、眞意ヲ捕捉スルコトガ困難デアルト云フヤウナ、サウ云フムヅカシイモノナラバ、勞働組合法ニシテモ、勞働爭議調停

法ニシテモ、洵ニ實用ノ價值ハ尠イト私ハ思フ、若シ本委員會ガ段々質疑應答ヲ重ネレバ其中ニハ分ルダラウ、誤解ガ氷釋スルダラウト云フコトニナリマスナラバ、遂ニハ分ラズニ一向反對スル折ガナクシテ本案ガ可決サレルト云フヤウナ結果ニナリヤセヌカト私ハ考ヘテ居ル、更ニ只今一番シマヒニ俵サンノ御意見、即チ産業ノ狀態ニ付テ本案ヲ提出シナクテハナラヌト云フヤウナ御意見ガアリマシタガ、此點ニ付テ改メテ御伺致シタウゴザイマス、先日本會議デ、同僚有馬君ヘノ總理大臣ノ御答辯ノ中ニモ「經濟界ニ甚ダシイ不利ヲ來サヌ爲ニ、或ハ日本産業全體ノ上ニ於テ、其制定ノ仕方ガ宜シクナイコトカラ經濟上ニ不利益ヲ及ボスト云フヤウナコトハ避ケナケレバナラナイ」ト云フヤウナ御意見ガアル、サウシテ見ルト勞働立法ヲ爲スニ當ッテ、總理大臣ノ御意嚮カラ推測致シマシテモ、只今ノ政務次官ノ御意嚮カラ推測致シマシテモ、産業ノ平和、産業ノ發達ト云フコトヲ十分ニ御心配ニナッテ居ルモノデアルト思ヒマスガ、此點ハ斯ウ考ヘテ間違アリマセヌカ

○俵政府委員 ソレハ其通りデアリマス

○木暮委員 ソレナラバ御伺ヒ致シマスルガ、此勞働組合ト云フモノヲ認メマシテ、勞働組合運動ト云フコトヲ認ムルト云フコトヲ前提ト致シマスル勞

働條件ノ維持改善ト云フコトハ、先ヅ第一ニ何ニ現ハレテ來ルカト言ヘバ、賃銀ノ増加ト云フコトニ現ハレテ來ル、今日ノ勞働者ノ生活程度ヲ改善スルト云フコトヲ目的ト致シマス勞働條件ノ改善ト云フコトハ、先ヅ第一ニ賃銀ノ増加ニ現ハレテ來ル、御承知ノ通りニ、從來ノ我國ノ狀態ガ天然ノ資源ニ洵ニ乏シイ、サウシテ土地ハ狹イ、サウシテ國際經濟戰爭ノ場合ニ於キマシテ——競爭ノ場合ニ於キマシテ、勞働者ノ賃銀ト云フコトニノミ頼ッテ、日本ハ辛ウジテ外國品ニ勝ッテ來テ居ッタト云フヤウナ狀態デアアル、天然資源ニ乏シイ或ハ經營ノ組織ガ惡イト云フヤウナコトヲ自ラ顧ミズニ、唯只管勞銀ノ低イト云フコトニノミ頼ッテ居ッタ、所ガ今國際經濟戰爭ニ臨ムニ當ッテ——日本ガ天然資源ニ乏シイトカ、或ハ生産資本ガ同ジデナイ、金利ガ高イト云フヤウナ缺點ガアルノニ、今マデハ人道上ニ於テハ、惡イナガラモ勞銀ガ低カッタト云フコトニ於テ、國際經濟戰爭ニ於テ相當優勝ノ地位ヲ占メテ居ッタニモ拘ハラズ、今度勞働組合運動ニ依テ勞働運動ヲ盛シニスルト云フ其結果ガ、先ヅ第一ニ賃銀ノ増加ニ現ハレタト致シタナラバ、一方ニ於テ金利ノ低下デアルトカ、或ハ産業組織ノ改善デアルトカ、或ハ日本ニ乏シイ天然資源、原料ト云フモノニ付テ、滿蒙ト手ヲ携ヘテ之ヲ取ルト云フヤウナ方法ヲ講ジマセヌ

場合ニ於テ、イキナリ賃銀バカリガ外國竝ニ上ルト云フコトニナリマシタナラバ、是ハ私ハ産業平和ノ攪亂ヲスルモノデハナカラウカト考ヘテ居ルノデアリマス、殊ニデス、國際勞働會議ニ於キマシテ、我國ガ保留ヲシタト云フコトモ此點ニ私ハ考慮ヲ拂ッテ居ルノデハナカラウカト考ヘテ居ル、サウ考ヘテ見レバ、先ヅ勞働者ノ利益ヲ圖ルト云フ所ノ此勞働組合運動ニ依ル結局ニ於テハ賃銀ノ増加ニナル、此問題ト共ニ一方ニ於テハ外國竝ニ金利ヲ下ゲルトカ、經營ノ改善ヲスルトカ、或ハ天然資源ニ付テモ缺乏シテ居ル所ヲ補フト云フヤウナ積極ノ方法ニ依テ、資本ノ方面ニモ相當ノ準備ヲ致サナケレバ、從來國際經濟戰爭ノ場合ニ於キマシテ、唯一ノ條件デアッタ所ノ其勞銀ト云フモノ、低カッタノガ上ルト云フコトニナルノハ、經濟界全體カラ見ルト好マシクナイトモ考ヘラレルノデアリマスガ、此點ハドウデアリマスカ

○俵政府委員 目下ノ經濟事情ニ照ラシテ、今組合法ヲ施行スルト、賃銀値上等ノコトカラ産業上ニ不利ヲ來シハセヌカト云フ方面カラノ御質問デアリマ

スガ、先ニモ申述ベマシタ通り、組合法若クハ勞働爭議調停法ノ制定ヲ必要トスルノハ、結論ハ勿論産業發達ノ爲ト云フコトニ歸スルノデアリマスガ、現時ノ經濟狀態又社會狀態カラ、最早組合ヲ自然ノ發達ニ任セテ其儘ニシテ置

ク譯ニハ行カヌ、況ヤ又勞働爭議ノ類
發スルガ爲ニ、爭議調停法ヲ此際制定
シテ、勞資ノ協調ヲ實現スルコトガ最
モ經濟的ニ必要デアルト云フ見地ヨリ、
今同本案ヲ提案シタノデアリマスガ、
只今御話ノ如ク組合ノ趣意ハ、勞働者
ノ條件ノ維持改善ニ在ル、然ラバドウ
シテモ勞働ト云フ側ニ於テ産業上ノ不
利ヲ來シハセヌカト云フ御懸念ノヤウ
デアリマス、併ナガラ當局者ハ組合ガ
ガ出來タカラト云フ必ズシモ組合ガ
盛ニナルトカ増加スルトハ信ジマセヌ、
組合ノ發達シ來タモノヲ保護スルニ
ハ相違アリマセヌガ、組合法ノ發布ニ
依テ組合ガ澤山出來ルトハ信ジマセ
ヌ、又組合法ガ出來タカラ直ニ賃銀ガ
増加スル、其他現時ノ經濟狀態ノ脅ス
ヤウナ勞働者ノ側ノ要求ガ盛ニナルト
モ信ジマセヌ、隨テ組合法ヲ制定シタ
前後ニ於テ、其點ニエライ違ヒハナイ
ト思フノデス、併ナガラ大體ニ於テハ
御說ノ如ク、組合法ガ發布サレマス
勞働條件ノ改善、即チ勞働賃銀ノ値上
ト云フコトニ趨ッテ行クデアラウト思
フ、然ラバ經濟上ニ於テ其方ノ側カラ
多少不利ヲ感ズル點ハアルデアリマセ
ウ、併ナガラソレガアルカラト云フ組
合法ノ制定ヲ致サナイ、又勞働爭議調
停法モ制定シナイト云フ譯ニハ行キマ
セヌ、何故カト云フト、現時ノ社會狀態
カラ致シマシテ、最早勞働組合ヲ自然
ノ發達ニ任セル譯ニハ行カナイ、之ニ

對シテ相當ノ立法ヲスル必要ヲ認メル
ノデアリマスカラ多少今日ノ經濟組織
ノ上ニ不利ヲ來スコトガアリト雖モ、
ソレハドウモ致方ガナイ、同時ニ資本
家ノ側ノ保護ト云フ方面ニ於テ十分考
慮ヲ拂フト云フコトハ勿論必要ト思フ
ノデアリマス

○木暮委員 モウ二三御伺致シマス、
今度ノ勞働法規ニ對スル非難ノ根源ハ、
大體ニ於テ社會局ノ成案ガ割合ニ進歩
シテ居タニ拘ラズ、更ニ行政調查會ニ
懸ケラレテ骨拔ニナッタト云フコトデ
アリマス、私共ハ勞働行政ノ主管ハ社
會局デアルト考ヘテ居ル、元來行政調
査會ハ、昨日本會議デ濱口サンモ御話
ニナッタ通り、能率ノ増進、事務ノ簡捷、
各省ノ間ノ脈絡統一ヲ圖ルト云フヤウ
ナコトヲ以テ設立サレテ居ルノデアル、
今回ノ勞働法規ガ此行政調查會ニ掛ケ
ラレタト云フコトハ私共ハ妥當デナイ
ト考ヘテ居ル、政府ノ方ハ、今回ノ勞働
法規ガ行政調查會ニ掛カッタノハ各省
ノ事務ニ涉ッテ居ルカラダト云フ御答
辯ガアルカ知レマセヌガ、是ハ妥當デ
ナイト考ヘル、殊ニ農林大臣トカ、海軍
大臣トカ、陸軍大臣トカ、雇傭者ヲ代表
シテ居ル者ガ各省ニハ居ル、斯ウ云フ
ヤウナ人ノ意見ガ主ニ這入ルト云フコ
トハ私ハ妥當デナイト思フ、勞働行政
ノ事務ノ主管タル社會局ノ長官ガ、各
省ノ意見ヲ聽ク爲ニハ、官制上ニ於テ
社會局參與ト云フ制度ガアル、此社會

局參與ト云フ制度ヲ通ジテ、主管者タ
ル社會局ガ各官廳ノ意嚮ヲ十分ニ聽イ
テ聯絡關係ヲ圓滿ニスルト云フコトハ
出來ルモノダト考ヘテ居ル、今回ノ勞
働法規ガ昨年ノ八月社會局ノ議ニ上ッ
テ、ソレカラ行政調查會デ審議シテ、其
結果ニ基イテ更ニ社會局ニ廻付シテ、
之ヲ法律案ニ作ラセルト云フヤウナコ
トハ、勞働行政ノ主管デアアル所ノ社會
局ノ權能ヲ無視シタヤウニモ私共ハ考
ヘテ居ルノデアリマス、官制上カラ考
ヘル所ニ依レバ勞働行政ノ主管者デア
ル社會局長官ハ、內務大臣ノ指揮監督
ヲ受ケテ、社會局參與ノ制度ニ從テ各
省ノ意見ヲ考慮シテ、斷々乎トシテ勞
働行政ニ對スル意見ヲ定メテ、勞働立
法ヲオヤリニナルナラバ少シモ差支ナ
イト考ヘテ居ル、斯ウ云フ風ニ、貧弱デ
アルケレドモ勞働行政ノ主管デアアル所
ノ社會局ト云フモノガアッテ、而モ各省
ノ意見ヲ聽ク爲ニハ社會局參與ト云フ
制度マデアリナガラ之ヲ無視スルヤウ
ナ方法ニ出デ、雇傭者トモ見ルベキ
人ノ意見ガ澤山這入ッテ居ル行政調查
會ト云フヤウナモノヲ中心トシテ勞働
立法ヲスルト云フコトニナッタナレバ、
本當ニ統一ノアル勞働行政、勞働立法
ハ出來ナイト考ヘテ居ル、今後ニ於テ
モ幾多ノ勞働立法ノ問題ハ起ッテ來ル
ノデアリマスガ、矢張斯ウ云フヤウニ
行政調查會ト云フヤウナモノガ大體ノ
意見ヲ定メテ、ソレカラ社會局ヘ戻ッテ

來テ案ヲ具スルト云フヤウナコトニナ
ルヤウデハ、勞働行政、勞働立法ノ前途
ノ爲ニ甚ダ遺憾デアルト考ヘル、此點
ヲ明確ニ御伺ヒ致シマス

○俵政府委員 法律ノ立案ニ付テハ種
種官制ノ命ズル所ノ所管ガアルノデア
リマス、勞働立法ハ社會局ニ於テ立案
スルコトハ勿論デアリマスガ、其立案
ノ後ニ於キマシテ種々ノ手續ヲ經ル、
種々ノ機關ニ之ヲ諮問シ、又ハ審議ヲ
經ルト云フコトハ寧ろ案其モノヲ慎重
ニ審議スル所ノ方法デアルト考ヘルノ
デアリマス、併ナガラ如何ナル機關ヲ
通ジ、如何ナル會議ヲ經テ審議ヲ致シ
マシテモ、其提案其成案ハ總テ政府ノ
責任デアリマスカラ、其成案ニ付テハ
何處マデモ政府ガ最後ノ決定ヲシテ、
如何ナル機關ニ諮問シヤウトモ、最後
ノ責任ヲ執テソレト、致スコトハ無論
デアリマス、今後ニ於テ矢張行政調查會
ニ勞働立法ヲ相談スルカドウカト云フ
コトニ付キマシテハ、是ハ其モノニ依テ
取捨スルノデアリマスカラ、必ズ行政
調查會ニ懸ケルトハ申上ゲマセヌガ、
併シ既往ノ此勞働組合法ヲ行政調查會
ニ懸ケマシタコトハ、是ハ政府ニ於テ
少シモ不都合デアルトハ信ジマセヌ、
如何ナル機關ニ諮問シマセウトモ、如
何ナル機關ノ審議ヲ經マセウトモ、ソ
レハ寧ろ案其モノ、慎重審議ノ手續デ
アリマス、其結果ハ政府及其政府ノ指
揮スル社會局ガ責任ヲ負ウテ立案若ク

ハ其説明ニ當リマス、左様御承知ヲ願ヒマス

○木暮委員　チヨット、ソレデハ御同致シマスガ、社會局參與ト云フモノガアツテ、各省ノ勅任官ガ御出ニナレバ此人ガ立案シタラソレデ宜イト思ヒマス、何故私ガ斯ウ云フ質問ヲスルカト云フト、私ハ政黨派ヲ超越致シマシテ、現在ノ政治ニ於テハ、モウ樞密院ハ御承知ノ通り段々勢力ガ無クナリ、元老ノ勢力ハ段々無クナリ、軍閥ノ勢力ハ無クナリ、舊來ノ官僚ノ勢力ガ段々無クナリ、サウシテ政黨内閣ガ出來テ事務ニ幾分力疎イ點ニ乗ジテ、新イ意味ノ官僚政治ト云フモノガ復活シテ來ハセヌカト云フコトヲ、私ハ何方デモ御心配シテ居ル事ト思フ、其意味合カラ行政調査會ナルモノガ斯ウ云フ重大ナル案ニ啄ヲ容レテ、社會局ト云フ勞働行政勞働立法ノ主管者ガアルニ拘ラズ、此方ノ人ガ事ヲ爲サズシテ——此人ガ内務大臣ノ指揮ヲ受ケテ自分ガヤリ、又ミ色ミノ慎重審議ト云フ名目ノ爲ニ行政調査會ト云フヤウナ、唯是ハ事務簡捷ヤ能力増進ト云フヤウナ所謂事務的ノ目的ノ爲ニ出來テ居ル官署ノ手ニ懸カルト云フコトハ、私ハ將來勞働行政ノ權威ノ爲ニ、勞働立法ノ權威ノ爲ニ、甚ダ遺憾ト考ヘテ斯ウ云フ質問ヲスルノデアリマス

○鈴木政府委員　只今ノ木暮サンノ御質問デアリマス、内務省竝ニ社會局ニ

御同情ノアル御言葉デアリマシテ、其點ハ誠ニ感謝致シマス、此法案ヲ行政調査會ニ懸ケマシタコトハ、只今俟政務次官カラ申上ゲマシタ通り、慎重審議ト云フ事以外ニ、モウ一ツ申上ゲナケレバナリマセヌ事ガアルノデス、ト

申スノハ、勞働立法ハ更ニ重大ナル案件デゴザイマス、總テ之ヲ議會ニ提案スル前ニ當ッテ閣議ヲ經ナケレバナリマセヌ、即チ廟議決定シテ各國務大臣之ニ贊同シテ、初メテ議會ニ提出ガ出來ルノデアリマス、故ニ廟議ニ於テ若シ反對ガアレバ議會ニ提出ハ出來ナイノデス、其最モ適切ナ事實ハ、名前ヲ擧ゲテ申上ゲルノハ如何カト思ヒマスガ、昨年マダ第五十議會ニ提出スル覺悟ヲ以チマシテ立案シタ所ノ勞働立法ノ中ノ勞働爭議調停法ハ、閣議ニ於テ某大臣而モ勞働立法トハマルデ關係ナイ某大臣ノ反對ガアリマシテ、遂ニ提出ヲスル運ニ至ラナカッタ、ソレカラ勞働組合法ハ廟議ニ懸ケルコトスラモ出來ナカッタノデアリマス、ソレハ主務官廳デアアル内務省竝ニ農商務省、此兩省ノ意見ガ一致シナケレバ提案ガ出來ナイ、農商務省ハ只今ハ農林省ト商工省トニ分レテ居リマスケレドモ、此方面ノ同意ヲ得ナケレバナラヌ事ニナッテ居リマスノデ、結局廟議ヲスルニハ各國務大臣ハ自分ノ省ニ歸リマシテ、其省ノ人々ノ意見ヲ纏メテ、然ル後ニ態度ヲ決定スルト云フコトニナリマス、

中々外デ見ル程簡單ニハ參ラス、故ニ廟議ニ出ス前ニ各省カラ出タ所ノ委員ヲ以テ組織サレマシタル行政調査會ニ懸ケテ、然ル後ニ成案ヲ得テ閣議ニ懸ケト云フコトニナレバ誠ニ運ビガスラ

スラト參リマス、斯様ナ意味デ行政調査會ニモ懸ケタヤウナ事情ガアルノデス、是ハ單純ナル事情デアリマスカラ、輕ク御聽取ヲ願ヒタイノデアリマス、其邊ハ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス

○木暮委員　只今御丁寧ナ御答辯ガアリマシタケレドモ、私共ハサウムヅカリマシタモ角トシテ、是ハ勞働行政ノ主管デアアル所ノ社會局ガアリ、サウシテ内務大臣ノ指揮監督ヲ受ケテ茲ニ案ヲ作ッテ、サウシテ廟議ヘ出セバ少シモ差支ナイガラウト考ヘテ居リマス、斯ウ云フヤウナコトハ議論ニナリマスガ、唯私ハ日本ノ勞働行政、日本ノ勞働立法ノ權威ノ爲ニ、又是カラノ政治界ニ新イ意味合ノ官僚主義ノ這入ッテ來ルノヲ防グ意味ニ於キマシテモ、今後ノ勞働立法ハ、若シ社會局ト云フモノガ小サイナラバ之ヲ何トカ方法ヲ變ヘテ、一ツノ省ニシテモ宜カラウシ、斯ウ云フ中心體ヲ造ッテ置イテ、他ノ屬僚ヤ官僚ノ人ガ啄ヲ容レナイヤウニ、是ハ内務省ニ對スル同情トカ、社會局ニ對スル同情トカ云フヤウナ問題デナクシテ、將來勞働問題解決ノ上ニ於キマシテ極メテ必要ナ事デアラウト考ヘテ一言致シマシタ、モウ一ツ質問致シ

タイノデアリマスガ、先日本會ニ於ケル山口氏ヘノ答辯ノ中ニ、總理大臣ガ矢張國各事情ヲ異ニスル所ガアル、外國ノ例ヲ直ニ模スル必要ハナイ、我國ハ我國ノ事情ニ於テ勞働立法ヲスレバ

宜イト云フヤウナコトヲ、色々ノ機會ニ申述ベラレテ居ルノデアリマス、斯ウ云フコトヲ唯聽キマス、私ハ從來内務省ノ官僚ノ中ニ於テ唱ヘラレテ居タ所ノ日本ノ勞働問題ト云フモノハ、外國ト趣ヲ異ニシテ日本ニハ階級闘争ト云フモノガ無い、日本ノ勞働問題ノ發生狀態ガ違フカラ、所謂溫情主義トカ或ハ主從ノ關係ト云フヤウナコトデ解決スルコトガ極メテ穩當デアラウト云フヤウナ、内務省關係ニ於ケル官僚思想ト云フモノガ茲ニ胚胎シテ居ルノデハナイカト云フコトヲ私ハ心配シテ居ルノデアリマス、日本ノ勞働問題ニ致シマシテモ、各國ニ共通ノ近代ノ產物デアアル、日本ニ資本主義的生產組織ガ這入ッテ來テ、賃銀組織ガ出來テ、茲ニ勞働問題ト云フモノ、結果ニナッタト致シマスナラバ、日本ダケガ一方生産業ニ於テ資本主義ノ生産ヲ採用シ、機械的ノ大規模ノ工業ヲ採用シテ、賃銀制度ガ出來テ其結果、勞働問題ノ解決ダケニ對シテ各孤立スルト云フコトハ無理ナ事デアッテ、マルデ理窟ノ無い事デアルト考ヘル、殊ニ國際勞働會議ニ於キマシテ、保留デアルトカ、或ハ猶豫デアルト云フヤウナコトヲ申述ベマ

シタガ、大體ニ於テ勞働改善ノ原則ヲ採用シタト云フコトハ、既ニ其人ミガ日本ノ勞働問題ト云フモノガ温情主義デアルトカ、或ハ主從ノ關係ト云フヤウナ、多年内務省ニ蔓ラテ居ッタ所ノ官僚的ノ考ニ依テハ、解決スルコトガ出來ナイト云フコトヲ考ヘテ居ルノデハナカラウカト考ヘテ居ル、此點ヲ日本ノ當路者ガ勞働問題解決ニ付テ、先頃カラ總理大臣ガ種々言フヤウニ、日本ノ事情ハ別デアアル、外國ノ例ヲ模スルノ必要ハナイ、日本ニハ別ノ事情ガアルト云フコトヲ盛ニ御言ヒニナリマシタケレドモ、今更私ハ官僚的ノ温情主義トカ、或ハ主從ノ關係ト云フコトヲ高調力説サレルノデハナカラウト考ヘマスガ、此點ヲハッキリ御答ヲ願フテ置キタイ、日本ノ内務省關係ノ方ミガ、勞働問題ニ付テ只今ニ於テハドウ云フ御考ヲ持ッテ居ルカト云フコトヲハッキリ御伺致シタウゴザイマス

リマス、決シテ日本ノ固有ノ事情ノミニ依テ立法スルト云フノデハナイ、外國ノ立法モ參酌スルシ、外國ノ狀況ハ無論之ヲ參酌致シマスルガ、是ノミニハ依レヌ、即チ日本固有ノ事情モ參酌シナケレバナラヌ、斯ウ云フ意味ニ外ナラヌ、サウ御承知ヲ願ヒタイ

テ現在ノ社會狀態ヲ深く考慮致シマシテ、之ニ餘リ懸離レタル立法ヲ致スト云フコトハ考ヘモノデアアルト云フコトハ是ハ申ス迄ナモイ、今後ノ社會狀態ガ變遷致シマシテ、精神勞働者モ是ハ勞働者デアアル、社會狀態社會通念ノ上カラ、是モ矢張勞働者トシテ此範圍ノ中ニ入レベキモノデアアルト云フヤウニ、時勢ガ變遷致シマシタナラバ、或ハ此勞働組合法或ハ勞働爭議調停法ノ對象物トシテ、精神勞働者ヲ含メルヤウナ時勢ガ來ルカモ知レヌ、併シ今日ノ社會狀態、社會通念ノ上カラ申シマスレバ、先ヅ勞働者ト云ヘバ筋肉勞働者ヲ意味スルト云フコトガ、大體ノ常識上間違ガナイコトデアアル、隨ヒマシテ勞働立法ト申シマシテモ、只今議ニ上ッテ居リマス組合及調停法ニ於テハ、筋肉勞働者ヲ對象ト致シテ居リマスガ、此二ツノ法律ニ於テ精神勞働者ヲ含ムヤ否ヤト云フコトハ、是ハ社會事情ノ變遷ニ順應致シマシテ考慮シナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、併シ勞働立法ト云フコトヲ尙ホ廣ク解シマシテ、社會立法ト云フコトニマデ推廣メマスナラバ、是ハ社會政策の施設ハ單リ勞働者ノミニ限ラズ、今日ト雖モ精神勞働者竝ニ中産階級ノ或ルモノニ向ッテモ、社會政策的ノ施設ヲ行ハナケレバナラヌト考ヘマス、例ヘテ申シマスナラバ、既ニ議會デ豫算ヲ御協贊ニナリマシタ健康保險法ノ如キモノガ、工場、鑛山ニ勤務致シテ居リ

マスル者、千二百圓以下ノ俸給生活者ヲ保護ノ中ニ入レテ居リマス、勞働立法ト申シマシテモ人々ニ依リマシテ其範圍ガ違ヒマスカラ、之ヲ社會立法ト云フコトニ廣ク取リマスレバ、只今デモ精神勞働者ヲ對象物ニ入レテ居リマス、繰返シテ申シマスレバ、今ノ御審議ヲ願ッテ居リマス勞働立法ノ中ニハ、只今ノ所デハ精神勞働者ガ這入ッテ居リマセヌ、斯様ナ趣旨デゴザイマス

○本暮委員 ソレカラ今後ノコトガアルカラ御聽致スノデアリマスガ、其内務省關係ニ於テ今後勞働立法ヲ作リマシル場合ニ、主タル對象物ハ此間ノ本會議ニ於キマス總理大臣ノ御答辯ニ依ルト、現在出テ居ル所ノモノニ付テハ筋肉勞働者デアアル、斯ウ云フヤウナ御話デアリマスガ、今後勞働立法ヲ爲サルノニ、筋肉勞働者ノミヲ對象トシテ立法ヲオヤリニナル御考デアアルカ、其點ヲハッキリ……

○長岡政府委員 勞働立法ト申シマス、範圍ガ餘程不分明デゴザイマシテ、ドノ法律マデ勞働立法ト云フ程度ノ中ニ這入リマスカ、是ハ學者ニ依テモ特色ガ違フ、併シ今後社會政策的ノ施設ヲ行ヒマスニ付テハ、是ハ筋肉勞働者ノミヲ對象トスベキデハナイ、精神勞働者デアリマシテモ、或ハ中産階級ノ或ル者ニ對シテモ、社會政策的ノ施設ヲ行ハナケレバナラヌト考ヘテ、居ル唯此勞働組合法、勞働爭議調停法ト云フヤウナモノニ付テハ、只今ノ所筋肉勞働者ダケヲ對象物ト致シテ居リマスノハ、是ハ御承知ノ如ク勞働立法ハ總

テ現在ノ社會狀態ヲ深く考慮致シマシテ、之ニ餘リ懸離レタル立法ヲ致スト云フコトハ考ヘモノデアアルト云フコトハ是ハ申ス迄ナモイ、今後ノ社會狀態ガ變遷致シマシテ、精神勞働者モ是ハ勞働者デアアル、社會狀態社會通念ノ上カラ、是モ矢張勞働者トシテ此範圍ノ中ニ入レベキモノデアアルト云フヤウニ、時勢ガ變遷致シマシタナラバ、或ハ此勞働組合法或ハ勞働爭議調停法ノ對象物トシテ、精神勞働者ヲ含メルヤウナ時勢ガ來ルカモ知レヌ、併シ今日ノ社會狀態、社會通念ノ上カラ申シマスレバ、先ヅ勞働者ト云ヘバ筋肉勞働者ヲ意味スルト云フコトガ、大體ノ常識上間違ガナイコトデアアル、隨ヒマシテ勞働立法ト申シマシテモ、只今議ニ上ッテ居リマス組合及調停法ニ於テハ、筋肉勞働者ヲ對象ト致シテ居リマスガ、此二ツノ法律ニ於テ精神勞働者ヲ含ムヤ否ヤト云フコトハ、是ハ社會事情ノ變遷ニ順應致シマシテ考慮シナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、併シ勞働立法ト云フコトヲ尙ホ廣ク解シマシテ、社會立法ト云フコトニマデ推廣メマスナラバ、是ハ社會政策の施設ハ單リ勞働者ノミニ限ラズ、今日ト雖モ精神勞働者竝ニ中産階級ノ或ルモノニ向ッテモ、社會政策的ノ施設ヲ行ハナケレバナラヌト考ヘマス、例ヘテ申シマスナラバ、既ニ議會デ豫算ヲ御協贊ニナリマシタ健康保險法ノ如キモノガ、工場、鑛山ニ勤務致シテ居リ

マスル者、千二百圓以下ノ俸給生活者ヲ保護ノ中ニ入レテ居リマス、勞働立法ト申シマシテモ人々ニ依リマシテ其範圍ガ違ヒマスカラ、之ヲ社會立法ト云フコトニ廣ク取リマスレバ、只今デモ精神勞働者ヲ對象物ニ入レテ居リマス、繰返シテ申シマスレバ、今ノ御審議ヲ願ッテ居リマス勞働立法ノ中ニハ、只今ノ所デハ精神勞働者ガ這入ッテ居リマセヌ、斯様ナ趣旨デゴザイマス

○依政府委員 勞働問題ノ解決ニ付キマシテ、決シテ日本ハ日本特有ノ事情ノミニ依テ之ヲ解決シヤウトハ存ジマセヌ、考ヘテ居リマセヌガ、即チ世界的ニ鑑ミテ、一般ニ各國ノ事情モ調ベ、之ニ依テ日本ノ立法ヲスルト云フコトノ必要ハ認メテ居ルノデアリマスガ、併ナガラ一概ニ外國ノ例ノミニモ依レヌ、日本ノ固有ノ事情モ參酌シナケレバナラヌト云フノガ、是ガ先日ノ内務大臣ノ言ハレタ答辯デアアルノデア

○本暮委員 精神勞働ト云フヤウナ御話デアリマシタガ、私ノ伺ヒタイコトハ——今回ノ勞働立法ノ對象物ハ主トシテ筋肉勞働者デアアルト云フコトハ宜シウゴザイマス、宜シウゴザイマスガ、例ヘバ商店ノ小僧ノ如キヤウナ階級デアルトカ、或ハ「サラリーメン」・「ユニオン」ト云フヤウナ者ヲ今日除外スル必要ハナカラウト私ハ考ヘテ居ル、主トシテ今回ノ勞働立法ノ對象物ハ、筋肉勞働者ガ當嵌マルコトハ當然デアリマス、主トシテ之ヲ中心トスルコトハ差支アリマセヌガ、其他ノ者ヲ除外スルト云フコトハ、現在ノ社會通念ノ上カラ見テ如何ナモノデアラウカト私ハ考ヘル、御承知ノ通り資本主義的ノ制度ガ出來テ、賃銀ノ制度ガ出來タ、サウシテ父祖代々使ハレルト云フヤウナ身分ハ單リ工業勞働者バカリデハナイ、昔ハ長ク使ハレテ居レバ暖簾ヲ分ケテ貰ッテ——小金ヲ溜メテ置ケバ小サイ店ヲ開クコトガ昔ハ出來タノデアリマ

マスル者、千二百圓以下ノ俸給生活者ヲ保護ノ中ニ入レテ居リマス、勞働立法ト申シマシテモ人々ニ依リマシテ其範圍ガ違ヒマスカラ、之ヲ社會立法ト云フコトニ廣ク取リマスレバ、只今デモ精神勞働者ヲ對象物ニ入レテ居リマス、繰返シテ申シマスレバ、今ノ御審議ヲ願ッテ居リマス勞働立法ノ中ニハ、只今ノ所デハ精神勞働者ガ這入ッテ居リマセヌ、斯様ナ趣旨デゴザイマス

マスル者、千二百圓以下ノ俸給生活者ヲ保護ノ中ニ入レテ居リマス、勞働立法ト申シマシテモ人々ニ依リマシテ其範圍ガ違ヒマスカラ、之ヲ社會立法ト云フコトニ廣ク取リマスレバ、只今デモ精神勞働者ヲ對象物ニ入レテ居リマス、繰返シテ申シマスレバ、今ノ御審議ヲ願ッテ居リマス勞働立法ノ中ニハ、只今ノ所デハ精神勞働者ガ這入ッテ居リマセヌ、斯様ナ趣旨デゴザイマス

スガ、「デパートメント・ストア」式ノ今日ニ於キマシテハ、連モ金ヲ少シバカリ溜メタ所デ、ドウニモ仕様ガナイ、普通ノ人ハ矢張傭ハレル者ハ傭ハレル者トナツテ居ルト云フコトハ、是ハ工場ニ働イテ居ル労働者バカリニ限ツテ居ラナイノデアリマス、商業使用人ニ於テモ其曠ヲ同ジウシテ居ルノデアリマス、主トシテ労働シテ居ル者、即チ荷造人夫、小僧ト云フヤウナ者、是等ノ者ハ除外サレテ居ル、除外サレテ居ルト云フ状態ニナツテ居ルノデアリマス、又現在ノ資本主義的經濟組織ノ結果トシテモ、大體自分ガ發奮シテモ、幾ラ貯蓄シテモ、獨立ノモノニナルコトハ出來ナイト云フ、一ツハ社會制度ノ缺陷モアリマセウガ、サウ云フ人ミニモ今回ノ労働立法ノ保護ヲ均霑サシテヤツテモ差支ナカラウト私ハ考ヘテ居ル、其點ハ如何デスカ

○長岡政府委員 本暮君ハ今回ノ法律ノ中ニハ筋肉労働者ノミヲ含メテ居ルヤウデアアルガト云フ御尋デゴザイマシタカラ、私ハ精神労働者ヲ此立法ノ中ニハ含マナイト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、只今ノ御質問デハ工場労働者ダケヲ對象トシテ居ルト云フコトヲ、何カ私ガ御答ヘ申上ゲタ如キ御質問デゴザイマシタガ、私ハ工場労働者ノミヲ筋肉労働者デアルト云フヤウナコトハ申上ゲタ積リハゴザイマセヌ、私ノ言葉ガ足ラナカッタカハ存ジマセ

スガ、筋肉労働者ト申シマスレバ、工場労働者ノミナラズ、鑛山労働者デゴザイマシテモ、又林業労働者デゴザイマシテモ、漁業労働者デゴザイマシテモ、或ハ小作人以外ノ農業労働者ニ致シマシテモ、皆筋肉労働者デアラウト考ヘマス、只今御尋ノ「デパートメント・ストア」デ荷造ラシテ居ル、是ハ雇傭契約ノ下ニ筋肉労働ラシテ居ル者ニ違ヒゴザイマセヌカラ、是等ノ者ガ労働組合ヲ造ルト云フコトハ、今日ノ社會通念ノ上カラ何等オカシイコト、ハ考ヘテ居リマセヌ、現ニ工場鑛山ニ關係ハナクテモ、或ル場合ニハ新聞ノ配達ト云フヤウナ者ガ集ツテ労働組合ヲ造ルト云フヤウナ實情モアル、私ノ申上ゲマシタ筋肉労働者ト申シマシタノハ、工場労働者ニ限ルト云フヤウナ狭イ意味デハ決シテゴザイマセヌ、唯「デパートメント・ストア」ニシマシテモ、銀行會社ニシマシテモ、所謂知識階級ノ者ガ頭デ働イテ居ル——銀行ノ番頭デアアル、或ハ會社ノ事務員デアアルト云フヤウナ者ハ、今日ノ社會通念ノ上ニ於テハ、マダ労働者ノ中ニハ這入ツテ居ラナイヤウニ常識上考ヘラレル、是等ノ知識ノ労働者、精神労働者ト云フ者ハ、今日ニ於テハ此二ツノ労働立法ノ中ニハ這入ラナイデアラウ、斯ウ云フコトヲ申上ゲタ趣意ニ外ナラナイノデアリマス

○本暮委員 一寸御聞キシマスガ、商業使用人——店員ト申シマスカ、私ハ

「デパートメント・ストア」デ荷造ラシテ居ルト言ッタノデハナイ、ア、云フ大資本デ商業ガ經營サレテ居ル、アノ中ノ店員ト云フ者ハ、矢張一ツノ父祖傳來ノ階級ニ置カレルノダ、斯ウ云フ者ヲ保護スルト云フコトガ、矢張今回ノ労働立法ニ於テモ必要デナカラウカ、ソレハ社會通念ノ問題ニナリマスルト、マダサウ認メナイトカ、モウ認メタラ宜カラウト云フヤウナ議論ニナリマスルガ、現在「デパートメント・ストア」ナドニ働イテ居ル店員ナドニ付テ見レバ、アレガ獨立ノ者ニナルト云フコトハ出來ナイ、矢張一ツノ階級ニ長ク——置カレル連中デアリマス、サウ云フ者モ商業使用人ト申シマスカ、店員ト申シマスカ、或ハ月給ヲ取ツテ居ル「サラリーメン」ト申シマスカ、サウ云フ者ニモ今回ノ如キ労働立法ノ保護ヲ均霑サセルト云フコトガ、私ハ政府ノ趣旨カラ言ヘバ當然デハナカラウカ、斯ウ考ヘ

○長岡政府委員 本會議ニ於テ原君カラモ同ジヤウナ御質問ガアツタト考ヘマス、如何ナル者ヲ精神労働者ト言ヒ、如何ナル者ヲ筋肉労働者ト言フカ、是其中間ノ者ニナリマス、或ハ聊カ觀念上曖昧ニナル者ガアルカモ存ジマセヌ、併シ大體社會常識ノ上カラ言ヒマシタナラバ、判斷ハ自ラ其間ニ附クコト、考ヘマスガ、只今御話ノ商業使用人ト申シマシテモ、同ジ使用人デアリマシテモ「デパートメント・ストア」ノ支配人デアアル、或ハ課長デアルト云フヤウナ兎ニ角幹部格ニナツテ居ル者ハ、私共ハ是ハ労働者ト云フ者ノ中ニハ這入ルマイト考ヘマスガ、商業使用人デアリマシテモ、主トシテ筋肉労働ニ依テ賃銀ヲ得テ居ルト云フ者ハ、是ハ商業デアリマセウト、農業デアリマセウト、又工業デアリマセウト、總テ筋肉労働ニ依テ働イテ、雇傭契約ノ下ニ賃銀ヲ得テ居ル者ハ筋肉労働者ト云フ中ニ入レテ差支ナカラウ、要スルニ問題ハ商業デアルトカ、工業デアルトカ云フノデ、其人ガ筋肉労働ニ依テ賃銀ヲ得テ居ルカト、頭ノ働キニ依テ給料ヲ得テ居ルカ云フ所ニ區別ガ存スルノデナカラウカ、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス

○本暮委員 一寸疑問ガ出來マシタカラ御聞キスルガ、私共ハ労働問題解決ノ場合ノ保護ノ對象物トナル者ハ、能ク筋肉労働者ト言フケレドモ、筋肉デ労働シテ居ルカラ之ヲ保護シナケレバナラヌト云フノデハナカラウト私ハ思フ、現在ノ資本制度ニ依テ賃銀制度ガ出來テ、或ル一ツノ階級ガ出來タ、其大部分ハ筋肉労働者デアアルカラ、今日ニ於テハ筋肉労働者ダカラ保護シナクチヤナラヌト云フノハ、是亦私ハ違ツテ居ルト思フ、資本制度ニ依テ賃銀制度ガ出來テ、或ル一ツノ階級ニ居ルノデアリマスナラバ、主トシテ筋肉ヲ使フカ、或ハ普通ノ月給取ノ如クニ精神ヲ働カ

セルカト云フヤウナコトハ問題デナク、一ツノ資本主義ノ結果デアル所ノ階級ヲ保護スルコトガ、勞働政策ノ根本デアツテ、筋肉勞働者ト云フコトガ——大部分ソレハ筋肉勞働者デアルガ、筋肉デハ勞働スルカラ其人ヲ保護スルコトデハナカラウト思ヒマスガ、此點ハ如何デス

○長岡政府委員 只今ノ木暮君ノ御意見ハ、是ハ餘程廣イ意味ノ進ンダ御考ト存ジテ居リマスケレドモ、只今例ニ御取リニナリマシタ「サラリーメン」ユニオン」ト云フモノモ、現ニ呱々ノ聲ヲ揚ゲテ居リマスケレドモ、是等ハマダ勢力ノ微弱ナモノデアリマシテ、繰返シテ中上ゲマシヤウニ、今日ノ社會通念ニ於テ、勞働問題ト言ヒ、勞働者ト言フノハ筋肉勞働者ヲ指スノデアル、之ヲ總テ資本制度ノ下ニ生レテ來タ無産階級ニ及ボスカドウカト云フコトハ、是ハ一ツノ御意見ノ問題デアリマシテ、今日ノ實情カラ立法致シマス上ニ於キマシテハ、先ヅ今日ノ勞働問題、勞働運動ト言ヘバ、筋肉勞働者ヲ概稱シテ行クノガ中庸穩健ナモノデハナカラウカ、將來ニ於テ是等ノ俸給ヲ取ル者ガ勞働運動ノ渦中ニ投ジテ、同ジヤウナ勞働問題ヲ惹起シ、又社會ガソレヲ認メルト云フヤウナ狀況ニナレバ、只今ノ木暮君ノ御意見ノヤウニナルカモ知レマセヌ、今日ノ狀態ニ於テ先ヅ吾々ガ勞働問題、勞働運動トシテノ對象物トシテ取扱フノハ、今日ニ於テハ先ヅ筋肉

勞働者、斯様ニ認メルノガ宜カラウト思ヒマス

○森田委員長 ソレデハ丁度時間デアリマスカラ、暫ク休ミマシテ午後一時カラ開會スルコトニ致シマス

○木暮委員 最後ニ一寸政府ノ態度ヲ伺ツテ置キタイノデスガ、勞働問題ニ付キマシテ、現在デハ勞働組合運動ト云フモノニ依テ、勞働問題解決ト云フカ、勞働者ノ地位ノ確保、勞働者ノ雇傭契約維持改善ト云フコトヲ主トシテオヤリニナルノデアルカ、或ハ國家ノ力ニ依テ勞働立法ノ恩恵ヲ十分ニ加ヘマシテ、之ニ依テオヤリニナル御考デアルカ、ドチヲ主トスルモノデアルカト云フコトヲハツキリ伺ツテ置キタイ

○長岡政府委員 勞働立法トシテ本議會ニ提出致シマシタモノハ、御承知ノ通り勞働爭議調停法ト、勞働組合法案ト二ツデゴザイマスガ、之ヲ以テ勞働者ニ關スル立法ガ全然完結シテ、是デ打切ルトハ考ヘテ居リマセヌ、一方ニ於テ工場法其他ノ總テノ法規ト云フモノモ、時勢ノ進運ニ伴ヒマシテ、社會事情ニ突飛ナル變化ヲ與ヘナイト云フ範圍内ニ於テハ、相當進歩改善ヲ加ヘナケレバナラヌト思ツテ居リマス、又或ル時期ガ參リマスレバ、最低賃銀法ト云フモノ、或ハ失業保險法ト云フモノモ考慮シナケレバナラヌト考ヘマス、併ナガラ是ハ將來ノ問題デアリマシテ、繰返シテ申シマスヤウニ、單リ勞働問題ノミニ眼ヲ注イデ、將來ノ社會狀況ヲ考ヘズシテ、現狀ヲ甚シク破壊スルト云フヤウナコトハ避ケナケレバナラ

スカラ、此勞働組合法ノミニ依テ、勞働問題ヲ解決シタイ、斯ノ如ク簡單ニハ考ヘテ居リマセヌケレドモ、將來如何ナル立法ヲスルト云フコトハ將來ノ事情ニ依リマシテ研究シナケレバナラヌト考ヘテ居リマス

○森田委員長 ソレデハ丁度時間デアリマスカラ、暫ク休ミマシテ午後一時カラ開會スルコトニ致シマス

午後一時二十九分開議

○森田委員長 ソレデハ午前ニ引續キマシテ開會ヲ致シマス、木暮君シタノデアリマスガ、長岡長官ノ御答辯ガ質問ノ趣意ニ御觸レニナラナカッタト思ヒマスカラ、改メテ茲ニ申上ゲマス、御承知ノ通りニ勞働問題ノ解決法ヲ沿革的ニ見マスト云フト、三ツノ方法ガアル、一番初メノモノハ、詰リ雇主ガ社會ノ制裁デアルトカ、輿論ノ勢力デアルトカ、或ハ雇主自身ノ發議ニ依テ、勞働者ニ對シテ公正ナル取扱ヲナサセルト云フコトガ一ツ、モウ一ツハ世ニ所謂勞働組合、其勞働組合ノ團體ヲ造ラシテ、サウシテ勞働者ノ自助的勢力、又彼等ノ認メテ公正ナリトスル所ノ條件ヲ獲得セシムルト云フコトガ是ガ二ツ、モウ一ツハ現政府ガ力説高唱セラレル所ノ社會政策ノ下ニ、國家自ラ勞働者ノ生活ヲ改善スルニ必要ナ

ル勞働立法ヲ爲シ、地方團體デアルトカ、或ハ私人ト協力シテ之ヲ實行スルト云フ三ツノ方法ガアルト云フコトハ、沿革的ニ見レバ左様ニ考ヘル、現政府ハ是等ノ中デドレニ主ヲ置イテ、過去ニ於ケル英國ノ如ク、「トレード・ユニオンズ」ニ依テヤルナリ、或ハ最近ノ如クニ、社會政策的ノ立法ヲ俟テ、サウシテ地方團體及ビ私人トノ協力ニ依テヤルト云フコトヲ主ニスルカ、之ヲハツキリ伺フト云フコトハ、將來ノ勞働政策ノ確立ノ上ニモ極テ必要ナルコトデアルト考ヘマス、此點ヲ伺ヒマス

○長岡政府委員 午前中ノ御質問ニ對シマシテ、私ノ御答ノ仕方ガ甚ダ不十分デアツテ恐縮デゴザイマス、只今ノ御質問ニ依リマシテ能ク御趣旨ヲ了解致シマシタガ、御話ノヤウニ勞働者ノ自助的手段ニ依テ、只今ノ御話ノ——以前ノ英國ノ「トレード・ユニオンズ」ニ依テ此解決ヲ圖ルト云フ方法ト、又獨逸ニ於テ執ツテ居ッタ如ク、國家ノ保護的立法ニ依テ勞働問題ヲ解決スルト云フ、是ハ主義ニ依テハ明ニ二ツアルト云フコトハ、御説ノ通りト考ヘマス、併ナガラ御承知ノ通り何處ノ國ニ於キマシテモ、此主義ヲ一貫スルコトハ到底出來ナイヤウナ狀況ニナツテ來マシテ、英國ニ於キマシテモ今日デハ「トレード・ユニオンズ」ダケデハイカヌト云フノデ、國家ガ非常ニ此勞働問題ノ解決ノ爲ニ種々ノ立法ヲ致シテ居ルト云フコト

ハ御承知ノ通り、又獨逸ニ於キマシテモ矢張此自助の手段ヲ執ツテ、勞働者ガ地位ノ確保ヲ圖ルト云フヤウナ風ニ進んで來マシタコトハ、又御承知ノ通り、デ我國ニ於キマシテモ根本方針トシテ一ヲ採リ他ヲドウスルト云フヤウナ考ハアリマセヌ、是ハ此間本會議ノ席上ニ於キマシテ、内務大臣ヨリ御答ヘ申上ゲマシタ如ク、又此勞働組合法案提出ノ理由書ニゴザイマヌヤウニ「勞働問題解決ノ爲ニハ一面工場法健康保險法ノ如キ勞働者保護ノ立法ヲ爲スト共ニ他面勞働者ガ自助の手段ニ依テ經濟的地位ノ向上ヲ圖ルコトヲ認メザルベカラズ」、斯ウ云フ事ガ此勞働組合法提案ノ理由書ノ劈頭ニ書イテアリマシテ、又此趣旨ヲ大臣ヨリ續々御説明ガ申上ゲテアル次第デアリマス、將來ノ勞働問題ヲ解決スル爲ニハ、社會政策の勞働者ノ保護立法ノミデハ解決ガ出來ナイ、又一面ニ於テ勞働者ノ自助の手段ニ依テ經濟的地位ノ向上ヲ圖ルト云フコトモ認メル、斯ウ云フ事ガ只今政府ノ考ヘテ居ル趣意デゴザイマス

○本幕委員 只今ノ御説明ニ依リマス「トレド・ユニオニズム」モ採用スルシ、ソレカラ勞働立法ノ方法モ採用スルト云フノデアリマスガ、ソレデハ伺ヒマスガ、第二「トレド・ユニオニズム」ニ依テ自助の手段ニ依テ勞働者ノ生活ヲ改善スルト云フ趣旨ヲ確立スルナラバ、先ヅ第一ニ必要ナルコ

トハ、所謂勞銀協約デアリマスガ、團體契約ヲ認メル、サウシテ勞働者ノ孤立無援ノ地位ヲ此團結ニ依テ確保スルト云フコトガ一番必要デアル、是ガ除ケテ居ルト云フコトハ、洵ニ是ハイカナイト思フソレカラ又此自助の手段ニ依テ勞働者ノ地位ヲ確保スルト云フコトナラバ、勞働委員會ト云フヤウナモノヲ百人ノ人ヲ使フ所ノ工場ニ對シテハ法律のニ認メテ、サウシテ勞働者ノ地位ト企業家ノ地位ト云フモノヲ相對立セシメテ、漸次接衝セシムルト云フ勞働委員會ノ制度ト云フモノヲ、法律のニ百人以上ノ使用人ヲ使フ所ヘハ必ズ認メナクテハナラヌト思フ、左様ナ點ニ於テ御考慮アツテ然ルベキモノト考ヘテ居リマス、ソレカラ第三ノ國家ニ勞働保護立法ト云フヤウナモノガ必要デアルト云フ御確信デアラナラバ、明治三十年頃ニ問題ニナツテ、サウシテ四十四年ニ法律ノ制定ニナツテ、大正五年ニ漸ク實施ノ運びニ至リマシタ所、極テ世間ニ不徹底ナルコトヲ非難攻撃サレテ居リマス所ノ工場法ト云フモノヲ、須ラク、斯ウ云フ二法案ヲ御提案ニナル前ニ、モット徹底のナル工場法ヲ御提出ニナルト云フコトガ、只今御説明ニナリマシタ所ノ國家ノ力ニ依テ勞働者ノ地位ヲ確保スル爲ノ勞働保護立法主義サヘモ御採用ニナルト云フ趣旨ヲ明カニスル所以デアルト私ハ確信スルノデアリマスガ、此點ハ如何デアリマ

スカ

○長岡政府委員 只今ノ重テノ御質問ニ對シテ御答申上ゲマスガ、第一ノ御質問ノ團體協約若クハ勞働協約ノ問題デゴザイマスルガ、是ハ先日モ本會議ニ於テ再三御質問モゴザイマシタ通り、現在ノ政府提出ノ勞働組合法案中ニ、此團體協約若クハ勞働協約ニ關スル規定ガ無いノハ、是ハ御話ノ通りデゴザイマス、併ナガラ此事ヲ目シテ直ニ勞働組合ノ團體的交渉權ヲ認メナイ、或ハ之ニ對シテ何等ノ保護ヲ加ヘテ居ラヌ、斯ウ云フヤウニ御論斷下サイマス方ガ或ハアルトシマシタナラバ、是ハサウ云フ趣旨デハゴザイマセヌノデ、勿論勞働組合ヲ認メ、而シテ其勞働組合ガ勞働條件ノ維持改善ヲ圖ルコトヲ目的トスル組合デアルト云フコトヲ認メタ以上ハ、勞働組合ガ企業者ニ對シテ、團體交渉ノ對手方トシテ、勞働組合ヲ承認スルコトヲ要求スルコト、即チ團體交渉權ノ要求ト云フモノハ、此法案ノ大體ノ精神ノ上カラ見マシテ認メラレテアルモノデアツテ、此組合ヲ認メ、組合ノ性質ヲ明カニ致シマシタ以上ハ、此勞働組合ヲ以テ團體交渉ノ對手方トシテ認メ得ルト云フコトハ、略之ニ依テ明カデアラウト思ヒマスルガ、此團體交渉ノ結果現ハレテ來マス所ノ團體契約勞働協約ト云フコトニ對シマシテハ、何等規定ハアリマセヌ、是ハ團體交渉權ト云フコトハ、之ニ依テ生ジテ來マ

ス所ノ團體契約ト云フコトハ、之ヲ明カニ區別スルコトヲ必要トスルモノデアリマシテ、團體交渉ノ結果生ジテ來マス所ノモノハ、只ノ勞働協約ノ場合モアリ、又其他集合の勞働協約デアル場合モアリ、又其他主張ノ貫徹トカ種々ゴザイマスルガ、何故ニ此政府ノ提出致シマシタ勞働組合法案中ニ、團體契約、勞働協約ニ關スル規定ガ無いカ、斯ウ云フ御質問デゴザイマスルト、是ハ現在日本ニ於キマシテ、實例トシテ吾ミノ知ツテ居リマスルノハ、大正十三年ノ九月四日ニ於キマシテ、株式會社川北電氣會社ト、勞働組合純向上會トノ間ニ成立致シマシタ此勞働協約ト云フモノガ唯一ノ例デアリマス、又勞働協約ト云フモノハ、政府ニ於テ至急解決シナケレバナラヌト云フヤウナ社會狀態ニ相成ツテ居ルモノト心得ナイノデアリマス、ソレデ勿論現在提出致シマシタ法案ノ中ニ、團體契約即チ勞働者ガ團體的ニ企業者ト契約致シマシタ場合ニハ、是ト相反スル箇々ノ勞働者ノ企業家ニ對スル勞働契約ヲ無効トスルト云フコトノ趣旨ヲ、直ニ此法案ガ否定シテ居ル次第デハ決シテナイノデアリマス、是ハ先日來内務大臣カラ御答申上ゲマシタガ如ク、外國ノ構成ニ於テモ、勞働組合法又團體協約ト云フモノトハ自ラ構成上別ノ組織ニナツテ、別ノ構成ニ屬シテ居リマスルカラ、是ハ尙ホ篤ト研究致シマシテ、近キ將

來ニ於テ單行法ヲ以テ制定致シタイ、唯之ニ關スル規定ヲ置クトシマシタナラバ、僅ニ元ノ社會局私案ノ第十二條ニアリマシタ如キ簡單ナ規定デハ足リナイト云フヤウナ趣旨ヲ以チマシテ、此團體協約、勞働協約ニ關スル規定ハ、勞働組合法中ニ規定ヲ置カナカッタ次第デアリマス、之ヲ以テ勞働協約ニ關スルコトヲ直ニ否定シタノデモゴザイマセズ、又更ニ團體交渉權ト云フモノニ對シテハ、先ヅ勞働組合法案大體ノ空氣觀念カラ言ヒマシテ、之ヲ認メタモノト云ツテ差支ナカラウト斯様ニ心得テ居リマス、第二工場委員會ノ御質問デゴザイマシタガ、是ハ御意見洵ニ御尤デアリマス、私モ此工場委員ト云フコトニ對シテハ、多少實地ヲ視タコトモゴザイマス、御承知ノ如ク一番古イ工場委員會制度トシマシテハ、兵庫縣ノ淡路ニゴザイマス淡島株式會社デアリマス、或ハ鐘淵紡績會社ノ京都工場デアリマス、ソレカラ全國ニ在リマス數十ノ工場委員ノ制度ニ付キマシテハ、私ハ實地三十幾ツ調バタコトゴザイマス、併ナガラ此工場委員ト云フモノ、制度ガ旨ク行ッテ居ルト云フ所ハ、多ク此雇傭者側ニ於キマシテモ、亦勞働者側ニ於キマシテモ、工場委員會ノ制度ヲ設ケテ之ニ依テ勞資間ノ意思ノ疏通ヲ圖リタイ、勞働爭議ト云フヤウナ問題ニナル前ニ、平生ニ於テ能ク意思ノ疏通

ヲ圖ツテ置イテ、感情ノ行違ヒヲ避ケルト云フヤウナ、兩方ニ於テ工場委員ト云フコトノ制度ヲ利用シヤウト云フコトノ誠意ノアル場合ニ於テ、此工場委員制度ハ大體ニ效果ヲ示シテ居ル、之ニ對シテ欲セザル者ニ無理ニ工場委員ヲ置ケト云フ規定ヲ設ケテモ、是ハ唯有名無實ニ、形式ニ終ルモノデハナカラウカ、現ニ關西方面ノ有力ナ企業者ニ於テモ、此工場委員制度ニ反對シテ居ラル、方モアルノデアリマス、斯ル工場委員制度ヲ好マザル者ニ設ケコト云ツテモ、結果ニ於テ勞資間ノ意思ノ疏通ヲ圖ルコトハ到底ムヅカシイコトデアリマス、此意思ノ疏通ノ機關トシテ工場委員會制ノ出來マスコトハ、決シテ當局ハ反對致シマセヌ、寧ろ斯ルモノガ平生存在シテ居ッテ、勞資間ノ意思ノ疏通ヲ圖ルコトハ望マシイコトデアリマス、各工場毎ニ必ズ工場委員會制度ヲ設ケト強制スル意思ハ、只今ノ所持ッテ居リマセヌ、尙ホ此第三ノ御質問トシテ、工場法改正ノ御質問デアリマシタガ、是ハ御承知ノ通り一兩年前ニ帝國議會ノ協賛ヲ經マシテ、施行スル手筈ニナツテ居リマシタノガ、震災其他ノ關係カラシテ今日迄施行スルコトガ出來ナイヤウナ狀況ニナツテ居リマシタガ、是ハ目下樞密院ニ御諮詢中デゴザイマスカラ、遠カラズ此改正工場法ノ施行ガ出來マシテ、先ヅ華盛頓條約ニ於テ日本ガ約

東シマシタ彼ノ内ノ幾部分ハ之ニ依テ實行出來ルコト、考ヘマス、併ナガラ此改正工場法以上ニ更ニ勞働時間ヲ短縮致シマスルコトカ、或ハ深夜業ノ廢止ヲモツト早ク施行スルト云フヤウナコトニ付テハ、是ハ毎々申上ゲマスルヤウニ、日本ノ産業狀態ト云フヤウナコトヲ篤ト考ヘマシテ、急激ナル變化ヲ與ヘルト云フコトヲ避ケナケレバナラヌ關係上、只今ノ改正工場法以上ニ更ニ工場法ヲ改正スルト云フヤウナコトニ付テハ、今日如何ナル程度ニ於テ何時實行スルト云フヤウナコトヲ申上ゲ得ナイノハ、甚ダ遺憾ト考ヘル次第デゴザイマス

○本幕委員 今ノ御答ニ依リマス、ト云フコト、單行法デ御出シニナルト云フ御話デゴザイマスガ、私共ハソレガ即チ勞働組合ト云フモノ、實際ヲ御存知ニナラナイ結果ニ陥ルノデハナイカト考ヘテ居ル、能ク勞働組合ノ職能ヲ以テ、共濟的ノ職能ト云フコトヲ力説スル者ガアリマスガ、共濟的職能ハ勞働組合ノ職能デハアリマセヌ、共濟的職能ハソレニ依テ散逸セントスル所ノ勞働者ノ結束ヲ増シテ、勞働者ヲ固メヤウト云フ、ソレハ補助的ノ手段ニ過ギナイノデ、勞働組合ノ目的ト云フモノハ、所謂「コレクチャーヴ・アグリメント」ヲ造ッテ、勞銀協約ト申シマスルカ、勞働協約ト申シマスルカ、團體協約ト云フカ、斯ウ云フ合法的ニ雇主ニ對抗スルト云フ協約ヲ作ルコトガ、勞働組合ノ本當ノ精神デ、共濟的職能ト云フモノハ之ヲ爲ス前ノ勞働者ノ結束ヲ散逸シナイヤウニスルト云フ、補助的ノ職能デアルト私共ハ考ヘテ居リマス、此點ハ洵ニ只今ノ御説明ニハ遺憾ノ念ヲ禁ジ能ハザルモノデアリマス、餘リ長クナリマスカラ質問ハ是デ止メマス

○栗林委員 此法案ニ付テ趣意ノ一貫シテ居ラナイ點ヲ甚ダ遺憾ト致シマス、尙ホ大體ニ此勞働問題ヲ解決スルノハ決シテ法案ノ制定ノミニ依ルコトノ不可能ナルコトハ、何レノ先進國ニ於キマシテモ、數十年此爭議ヲ重ネマシテ、有ユル變化ヲシテ、今日ニ至リ、益此弊ガ甚シクナツテ居リマスコトハ、是ハ當局ニ於テモ無論御認ニナルコト、思フノデアリマス、私ハ只今御配付ニナリマシタ各國ノ法令ヲ瞥見致シマスルニ、是亦甚シク分ラヌ點ガアリマスガ、今日勞働組合法及勞働爭議調停法案ヲ見マスルニ、例ヘバ第一條ニ於テ組合員タル者ノ制限ヲセラレテ居ル、第十二條ニ於テハ總會ノ決議ニ依リ加入ヲ許サレタル者ト云フコトガアリマス、其決議ト申シマスモノハ、十人集リマシテ組合ヲ組織スル、加入スル者ハ數千又ハ幾萬デモ差支ナイト云フコトニナルト、必ズ此精神ト云フモノハ打消サレテ居リマス、又十四條ナドニ至リマシテハ何等ノ規定デアリマスカ、殊ニ米國及英國其他ノ法令ニ於テ斯ル制

限ハ只今見マシタ所デハ無イノデアリ
マス、是ハ如何ナル御意思デアルカ知
ラヌガ、若シ組合員タル故ヲ以テ解雇
致シマス場合ヲ禁ズルノデアルナラバ、
明ニ制限セラレテ宜シイト考ヘマス、
又其意思表示ハ之ヲ無効トストアリマ
スガ、是ハドウ解釋シテ宜イカ知ラヌ
ケレドモ、表示サヘシナケレバ事實ハ
差支ナイ、ドウモ此法令ハ如何ニモ屢
變化シタモノノヤウニ承ッテ居リマス
ガ、私ハ兎ニ角總理大臣モ御見エニナ
テ居リマスカラ特ニ申シマス、此労働
問題ノ産業上ニ非常ニ影響ノアリマス
ルコトハ言フマデモナイノミナラズ、
甚シキニ至ッテハ國家ノ衰亡ニ歸スル
ヤウナ事態ニモ至ル重大ノ問題ダト存
ジマス、先日本會議ニ於テ多木君カラ、
如何ニカシテカ此勞資ノ利益ノ一致點
ヲ見出シテ、法令ニ依ラズシテ一般ノ
爭議ノ絶エルヤウナ方法ハナイカト云
フヤウナ御尋モゴザイヤシタガ、私ハ
之ニ付テ一箇ノ私案ヲ持ッテ居リマス
カラ、其事ヲ申述ベマシテ政府ノ御意
見ヲ伺ヒ、且ツ二三ノ實例ヲ舉ゲテ御
參考ニ供シタイト思ヒマス、大體從來
ノ總テノ社會組織、即チ工場及ビ地主
ニ致シマシテモ、多クハ自己ノ欲望カ
ラ、利益ノ分配ニ不公平ノアリマシタ
コトハ、是ハ正シク吾々ノ認ムル所デ
アル、ソレニ是ハ種々ナル事ガ原因ヲ
ナシテ居ルノデゴザイマセウガ、一方
ニハ甚ダ遺憾ナガラ我國ノ労働者ニハ、

其品性ガ至テ劣ッテ居ル者ガ多イ、又
從テ能率モ諸外國ニ比シテハ非常ニ劣ッ
テ居ル、此原因ハ要スルニ労働者ガ一
家ヲ支持スル上ニ、詰リ自己ノ品性ヲ
高メ、又日常生活ニ於テ十分ナル榮養
ヲ取ルコトガ出來ナイト云フヤウナコ
トガアリ、又労働者ト云フ者ハ、資本家
若クハ事業主ノ爲ニ働クノデアルト云
フヤウナ觀念ノ下ニ働イテ居ルノデア
ルカラシテ、ドウシテモ精神ヲ籠メテ
ノ労働ガ出來ナイ、是ガ主タル原因
デアルト考ヘマス、故ニ是ハ勞資協
調デハイケナイ、所謂一致點ヲ見出
スコトガ最モ肝要デハナイカ、勿論
此事ハ容易ナラヌ至難ノ問題デアリ
マセウ、何レノ國デモ爲政者ハ此問題
ニ付テ非常ニ苦心シテ居ルコトデアリ
マスカラ、重大ナル問題デアル、併シ是
ハ解決セザレバ已マナイ事ト私ハ存ジ
マス、今日多クノ勞働組合若クハ労働
者ハ、資本家トハ殆ド利害ガ一致シナ
イト云フコトヲ宣言シテ居ル次第デゴ
ザイマス、社會局アタリデハ、或ハ労働
總同盟ノ如キモノガ我國ニ於テハ理想
ノ組合ノ如ク御感ジデアリマセウガ、
其組合デサヘ尙ホ資本家トハ結局利害
ガ相反スル、絶對ニ一致スベキモノデ
ナイト考ヘテ居リマス、斯ノ如キ有様
デハ何レノ時ニカ労働者ノ幸福ヲ増
シ、事業ノ發展ヲ期スルコトガ出來マ
セウカ、私ハドウ致シマシテモ事業制
度組織ノ根本改革ヲ要スルコト、考ヘ
テ居リマス、例ヲ舉ゲテ申シマスレバ、
茲ニ一ノ工業會社ガアル、其會社ノ從來
ノ重役ナル者ハ、多クハ其工場ノ事業ヲ
能ク解シテ居ラナイ、サウ云フ風ノ役
員ガ多數ヲ占メテ居ル、甚シイノハ資
本家ノ親族デアアル、或ハソレノ縁
故者デアアル、又ソレハ何レモ相當ノ株
主デアリマスガ故ニ、重役會ニ列シテ、
而シテ利益ノ計算ハ明カデアリマセウ
ケレドモ、其事業ノ取締役トシ、若クハ
事業擔當者トシテハ無能力者ガ多イ、是
ガ既ニ誤ッテ居ルコト、存ジマス、又一
方ノ労働者ニ於キマシテモ、其事業ヲ
愛護スルノ念ガ無イ、而シテ資本家ノ
爲ニ働クノデアルト云フ觀念デアルカ
ラ、成ベク僅カナ時間デ多クノ賃銀ヲ得
ヤウト云ウテ、無理ヲ要求スルノデア
リマス、而シテ斯ウ云フ法案ニ付キマシ
テモ、資本家ハ資本家ニ不利益ノ條文ガ
アレバ反對シ、労働者ハ自分ノ方ニ取
テ理想ノ案デナケレバ絶對ニ反對スル、
若シ又利益ノ點ガアレバ、資本家ハソレ
ヲ武器トシ、或ハ労働者ハ之ヲ爪牙トス
ル、サウ云フ風デアリマスカラ、法案ノ
箇條ガ即チ爭議ノ武器トナルヤウナ結
果ヲ見ヤシナイカト思ヒマス、故ニ私
ハドウ致シマシテモ勞資ノ一致點ヲ發
見シナケレバ、産業ハ振ハナイト斯ウ
存ジマス、ソレデハ如何ニスレバ宜イ
カト申シマスレバ、私ノ私案ハ、先ヅ資
本家ニ一定ノ低利ノ利子、或ル制限シ
タ所ノ優先配當金ヲ保障スル、勿論利

タ所ノ利益ハ即チ其一半ハ總テノ工場ノ從事員ニ適當ノ方法ヲ以テ分配シ、一半ハ其工場ノ基礎ヲ堅固ニセシメル所ノ有ニル改良若クハ新施設ノ事柄ニ注ギマス、勿論機械モ種々新ナルモノガ發見サレル、木造ハ火災ノ虞ガアルカラ、創始ノ際ニ木造デアッタ建物ハ之ヲ耐火ニスル、サウシテ勞働能率ヲ舉ゲルト云フコトニ致シマシタナラバ、工場ハ非常ナ成績ヲ舉ゲルコトガ出來ルノミナラズ、其舉ゲタ所ノ利益ハ益一般ノ職工ニマデ配當ガ行ハレル、即チ利害ガ一致シテ來ル、而シテ此配當ヲ如何ニシテ分配スルカト云フト、無論率ハ一定ノ定ムル所ニ依リマスケレドモ、共同ノ委員ヲ拵ヘテスル、其分配ハ給料以上自己ノ分ガアル、即チ職工ハ職工ノ分、技師ハ技師ノ分、其分ニ應ズル、給料ノ倍額以上ハ配當セナイ、而シテ之ヲ保留シテ利殖ヲ圖リ、其金額ヲ以テ職工ノ養老費トシ、教育費トシ、若クハ自己ノ家屋ヲ建築スル、病氣ノ時ハサウ云フモノカラ適當ニ支出スルト云フコトニ致サナケレバナラヌト存ジマス、ナゼ之ヲ分配スベキモノヲ共同管理ノ上ニ置クカト申シマス、多クノ利益ヲ分ニ非ザル者ニ與ヘマスレバ、其者ハ非常ニ能率ガ劣ル、是ハ戰時中總テノ工業家總テノ實業家ノ經驗スル所デアリマス、多クノ給料多クノ「ボ一ナス」ヲ與ヘレバ與ヘル程、其者ノ能率ハ著ク減ズル、ソレハ詳シク申サナ

イデモ分リマセウガ、多クノ金ヲ與ヘレバ其金ヲ浪費スル爲ニ自己ノ健康ヲ損ヒ、若クハ病氣ヲ得ル、又睡眠不足ト云フヤウナ事ニナルカラ、工場ニ於テ十分ニ能率ヲ舉ゲルコトガ出來ナイ、而シテ其結果トシマシテハ、能率ガ舉リマセヌカラ、多クノ賃銀ガ取レナイ、又多クノ利益ハ絶エズ有ルモノデナイカラ、非常ニ職工ガ苦痛ヲ感ズルト云フヤウナ譯デアリマス、其配當ヲ制限シテ、而シテ一方ノ資本金ニハ半額ノ配當ヲシテ、其他ノ積立金ガ資本ニ達スルマデニ至ラタナラバ、之ヲ保留スルコトヲ打切ツテ、而シテ資本金ノ方ヘ割當テ、總テ工場ニ力ヲ盡シテ成績ヲ舉ゲタモノヲ逆轉シテ、資本金ノ方ヘ今度ハ無制限ニ、何割デモ何十割デモドン／＼資本金ガ取ルト云フコトニ致シマシタナラバ、所謂先憂後樂デ非常ニ其事業ニ付テ得ルコトモ出來ル、又其工場ハ丁度封建時代ニ武士ガ一城ヲ守ルト同ジデ、大將カラ足輕ニ至ルマデ死ヲ以テ之ヲ守ルト云フコトハ、即チ共同一致ノ利害カラサウ云フ事ニナルノデアアル、死生ヲ共ニスル觀念カラサウ云フ事ニナルノデアアル、而シテ工場ガサウ云フ組織ニナリマシタナラバ、總テ從事スル者ガ工場ヲ愛護スルノ念ガ出來マス、此ニ於テ初メテ私ハ勞資ノ一致ヲ見ルコトガ出來ルト思フノデアリマス、又斯クナリマスレバ、工場ニ於テ低能者、若クハ怯弱ノ者、能

率、技術ノ微弱ナ者、是ハ必ズ廢サレルガ之ニハ適當ノ方法ヲ講ジテ保護スルヨリ外ナイト存ジマス、クレドモ、ドウシテモ職工ニ多クノ賃銀ヲ與ヘマス——技術ハ長イ間デナケレバ熟練シナイ、今日ハ精神的デナケレバ、製作品ノ品質ガ改マラナイ、詰リ善良ノ品ガ出來ズ、又價格ノ上ニ於テ多大ノ違ヒガアル、若シ斯ウ云フ組織ニ致シマシタナラバ、勞働時間ノ制限ノ如キハ言フニ足ラス、若シ一般ノ市場ガ振ハナイデ、其工場ノ製品ガ市場ニ於テ到底引合ハナイト云フ場合ニ、一割引ナラバ八時間勞働ノ勞働者ガ進ンデ九時間勞働ヲスレバ、其工場ハ優ニ經濟ガ取レル、是ハ自己ノ爲デアルカラ當然致シマス、聞ク所ニ依リマスレバ、佛國ガ此八時間勞働ヲ主張シテ大ナル經驗ヲ得テ居ルト云フコトデアリマス、八時間勞働ト致シマスレバ、朝ノ六時カラ働イテ午後三時ニナリマスレバ八時間ニナル、サウナリマス、其後空シク自宅ヘ歸ッタ所ガ仕方ガナイ、收入ヲ制限サレテ居ル、八時間以上働ケナイノデ、乙ノ工場ト約シテ後ノ四時間ヲ又働ク、自己ノ爲ナラバソレハ、八時間勞働ノ者ガ十時間デモ十二時間デモ働イテ多クノ收入ヲ得ル、サウシテ日曜其他ニ十分ノ享樂ヲ盡スト云フコトモ聞イテ居リマス、ソコデ職工ガ家庭工業ト同ジコトニ、其工場ノ爲ナラバ一時間デモ二時間デモ多ク働イテ能率ヲ舉ゲル、サ

ウシテ其工場ヲ支持スルコトガ出來ル、又幾千幾百ノ者ガ心ヲ一ニシテ働ク事業ニ資本ヲ投ズルコトハ、資本金トシテモ非常ニ利益ナ事デアアル、唯資本金ハ當面ノ利益ヲ圖ルカラ、斯カルモノニハ投資者ガ無カラウト、斯ウ云フ反對ヲスル人モアリマス、クレドモ、資本金ナドハソナモノデハナイ、長イ事業デハ百年二百年ノモノガ幾ラデモアル、森林ヲ經營スルトカ、或ハ鑛山ヲ採掘スルト云フヤウナ事ハ、非常ニ長イ事業デアアル、事業ガ確實デアッタ資本ノ安全ガ保障サレ、將來多クノ利益ヲ豫期スルコトガ出來ルナラバ、喜ンデ其上ニ投資ヲシヤウト考ヘマス、若シ然ラズシテ今日ノヤウナ狀態デ、勞資相容レナイト云フコトニナリマシタナラバ、丁度國ト國ト同盟シテ、利害ガ相等シクレバ戰爭ヲシナイ、利害相反シテ不一致ニナレバ必ズ戰ニ決スルヤウナ事ニナル、サウ云フ狀態ニ等シイモノガ相對峙シテハ、爭議ハ盡キナイト思ヒマス、此手緩イ所ノ爭議調停法デハ、調停シ放シデ何等決裁スベキモノデハナイト思フ、若クハ一方ノ方カラ言ヘバ無ケレバナラヌカモ知レヌガ、併ナガラ餘リ徹底シナイ法案デアアル、尙二三ノ實例ヲ舉ゲテ申上ゲマスガ、漁業家ハ殊ニ北海道、樺太、勘察加、此邊ニ年々幾十萬ノ漁夫ガ出稼致シマシテ、サウシテ未ダ曾テ漁業家ト漁夫トノ間ニ利益ノ相違ト云フモノガ起ッタ例ガナイ、

是ハ如何ナル制度ニナッテ居ルカト申シマス、詰リ漁獲シタモノ、分配法ガ決マッテ居ルカラ、多ク獲レバ從テ、多ク分配スル、又漁夫ハ殆ド多クハ東北各縣デゴザイマスガ、言語モ能ク通ジナイヤウナ山ノ中、或ハ海岸カラソレトモ募集シテ來テ、或一定ノ前金ヲ以チマシテ呼寄セルノデアリマスガ、ソレ等ノ者ハ殆ド漁業家ニ對シテ何等ノ交渉モ面識モナイ、又相共ニ働ク者ニモ全ク一面識ノナイ者デアアル、然ルニノレガ一團トナッテ有ラユル活動ヲスル、詰リマダ雪モ解ケナイ春先ノコトデアアル、其寒イ中ニ於テ山ニ這ッテ薪ヲ持ッテ來テ、サウシテソレヲ細カク割ッテ乾燥スル、是ハ漁獲物ガ群來シタトキニ俄ニ之ヲ用ユルノデアリマスカラ、其前ニ十分乾燥シテ置イテ、能ク燃燒スルヤウニシナケレバナラヌ、サウ云フコトヲ協力シテヤッテ居ル、次ニ網ヲ調ベル、此網ノ一部ガ腐蝕シテ居ッテ魚ガ漏レテハナラヌト云フノデ、力ヲ協セテ網ノ手入ヲスル、又船ニ致シマシテモ船底ニ「コールター」ヲ塗ルトカ何トカシテ、水ノ這入ラヌヤウニスル、サウシテ一旦時機ニ至ッテ魚ガ群來スルトキニハ、晝夜不眠不休デ五日デモ、十日デモ奮闘スル、殊ニ北海ノ春先ノコトデアリマスカラ、俄ニ暴風ガ起ルトカ、又ハ風雪ガアルト云フコトデ、非常ニ危険デアアル、有ラユル困難ト闘ッテ收穫スルト云フコトハ、是ハ自己ノ爲ニ働クト云フ觀念

デ決シテ資本家ノ爲メデナイ、協同ノ力ヲ以テ危險ヲ冒シテヤル、其爲ニ船ガ顛覆スルト云フヤウナコトモアル、斯様ニ不眠不休デヤルノデアリマス、所ガ是ガ一旦不漁ニナッタナラバ、汽車ニ乗ル赤切符一枚デ以テ何等ノ手當モナイ、ソレデモ漁夫ハ長々御世話ニナリマシタト云フテ、漁夫ハ無一物デモ何等ノ不平ナク歸ル、圓滿ニヤッテ居ル、是ハ屋外労働デアアルカラ、一般工場労働ニ適用スルコトハ出來ナイトシテモ、其精神ニ於テハ全ク自己ノ爲ニ働クト云フ精神デナケレバ能率ハ擧ラヌ、又製品ノ善良ナルモノヲ拵ヘルコトガ出來ナイ、又外國製品ニ何處迄モ對抗スルコトガ出來ナイ、殊ニ化學工業ニ於テ其憾ミガ多イノデアリマス、此事ニ付キマシテハ無論苦ミ一個ノ卑見デアリマスカラ、此事ヲ直ニ實行サレルコトハ出來ナイガ、如何ニカシテ事業家ト労働者ノ利益ノ一致點ヲ發見セラレテ、サウシテ此制度ヲ定メラレンコトヲ熱心ニ希望スル次第デゴザイマス、尙ホ逐條ニ至リマシテ御尋申上ゲタイト思ヒマスガ、併シ一、二御尋致シテ差支アリマセヌカ、委員長ニ御尋ヲ致シマス

○森田委員長 逐條ニ付テハ一巡致シマシテカラ、後デ御相談スルコトニナッテ居リマス

○栗林委員 ソレナラバ是デ質問ヲ打切リマス

○若槻國務大臣 只今組合法案ノ規定ニ於テ、御満足ナサラヌ點ガアルト云フコトデ、此法案ニ依テ勞資ノ互ノ主張ヲ調和スルコト云フ事柄ハ、目的ヲ達シ惡イト云フ御考カラ、資本家ト労働者ノ利害ヲ一致セシメルガ宜イトシテ、利益ノ分配ノ上ニ於テ、労働者ニ自己ノ労働ノ結果ノ分配ヲ受ケシメルヤウニサシタ方ガ宜イト云フコトデ、色例ヲ舉ゲテ御意見ノ御陳述ガアリマシタ、私モ一般ノ事業經營ニ於テ、資本家ト労働者ガ利益ノ分配ヲ相當ニシテ、而モ働イテ利益ガ多ケレバ多イダケ、労働者ニ分配ガ多クナルト云フヤウナ仕組ガ行ハレマシテ、兩者ノ利害ガ一致スルヤウニナルコトハ、是ハ極メテ望マシイコトデアアルト思ヒマス、併シソレハ法制ヲ設ケテ直ニ施行シテ行クト云フコトガ出來ルヤ否ヤ、是ハ餘程考物デアラウト思ヒマス、凡ソ會社ノ經營ト云フモノハ、斯ウ云フヤウニシナケレバナラヌト云ッテ、只今御述ベニナッタヤウナ資本家ニ優先ノ利益配當ヲ一定額ダケ受ケシメ、其餘分ハ一部ハ労働者ニ分配シ、一部ハ積立テテ行クヤウナ方法ヲ必ズ取レヨト云ッテ、今日ノ日本ノ産業ヲ相當ニ進メテ行クコトガ出來ルヤ否ヤ、是ハ私ハ異論ノアル事柄デアアリマセヌ、會社ヲ經營スルモノハ御述ベニナッタヤウナコトデ經營シテ行ッタラ、大變ニ宜シカラウト思ヒマスガ、法制デ以テ之ヲ強

制スベキモノナルヤ否ヤ、之ニ付テハ私ハモウ少シ研究シマセヌト、直ニ法律デ強制スルコトニ御同意申スト云フコトハ、只今ノ所デハ出來惡イノデアリマス、唯併シサウ云フ利害ノ一致點ヲ見付ケテ、成ルベク勞資ノ間ノ協調ヲ保ッヤウニスルノガ宜イト云フ御意見デアリマスガ、ソレアッテモ労働者ニ協同ノ力デ彼等ノ利益ヲ擁護スルコトガ出來ルヤウニシテヤルト云フコトハ、要ラヌコトデアアルカト云フト、私ハ兩者共ニ行ハナケレバナラヌト思フノデアリマス、何ト云テモ労働者ガ資本家ト互ニ主張ヲ異ニシマシタ場合ニ於テ、労働者ガ個々ニ其主張ヲ致シテ居リマシタノデハ、其主張ヲ貫徹スルニ不便ガ多イノデアリマスカラ、是ガ協同シテ働キ得ルヤウニシテヤルト云フ事柄ハ、ドウモ資本家ハ中々有力デアル、一方労働者ハ個々ニ分カテバ割合ニ力ガ薄イト云フコトニナリマスノデ、ドウモ其邊マデノコトハヤッテ置ク必要ガアルノデハナカラウカト思フノデアリマス、而シテ是ハ法律ガ出來テ初テ左様ニナル譯デアアリマセヌ、今日迄デモ法律ハナシニ既ニ事實上組合ハ出來テ居ル、所謂世ノ中ノ必要ガ制度ヲ産ンデ來テ、今日ハ既ニ法律ナクシテ、労働組合ナルモノガ或ル程度マデ發達シテ來テ居ルヲ見テモ、ドウモ此資本家ト労働者ガ互ニ主張ヲ異ニシタ場合ニハ、労働者側ニハ協同シテ働カン

ケレバ、其主張ノ目的ヲ達シ惡イト云
ノコトガ、事實ニ依テ證明セラレテ居
ルト云ツテモ宜クハナカラウカト思フ
居ル位デアリマス、ソレデアリマス以
上ハ、今御述ニナリマシタウナ利害
ヲ一致セシムル爲メ會社ノ管理方法、
經營方法、固ヨリ私ハ之ニ大ナル異論
ハアリマセヌケレドモ、サウ云フ一ツ
ノ方法ガアルカラト言フテ、勞働組合
ヲ設ケルコトハ其必要ナシト云フ結論
ニハ到達シナイト思フデアリマス、殊
ニ勞働爭議ノ調停法ノ如キハ、爭議ガ
ナケラネバ洵ニ結構デアリマスガ、能
ク新聞ニ依テ御覽ニナツテ居ル通り、
今日ハ洵ニ遺憾ナガラ資本家ト勞働者
ノ間ノ爭議ガ絶エナイノデアリマス、
其故ニ若シ公益事業ニ付テ爭議ガ起ル
ヤウナコトニナリマス、直ニ公衆一般
ガ迷惑スルト云フコトニナリマスカ
ラ、公衆ノ利益ヲ擁護スル爲メハ國家
トシテハ相當ナル之ニ對スル途ヲ樹テ
テ行クコトヲ努メナケレバナラス、其
途トシテハ勞働爭議調停法ノ如キモノ
ガ、極メテ大切ナルモノト思ハレルト
云フヤウナ點カラ、政府ハ今回ノ法律
案ヲ提出致シテ居ルノデアリマス、只
今御述ニナツタ點ニ付テ異論ヲ述ベル
ノデアリマセヌ、併ナガラソレト同
時ニ、ソレアルガ故ニ今回提出シタ法
律案ハ、其必要ヲ見ズト云フ結論ニハ
達シナイト云フコトデアリマス

○栗林委員 只今内務大臣ノ御答辯ガ
アツタノデアリマスガ、勞資ノ一致點ヲ
發見スルコトガ出來ルヤ否ヤト云フコ
トガ、此組合法ヲ制定セラレルコトニ
付テ餘程關係ヲ持ツテ居ルト思ヒマス
カラ、此點ニ付テ御伺ヒシタイ、隨テ此
法案ヲ審議致シマスルコトニハ異論ガ
アリマセヌガ、併ナガラ私ハ是ハ社會
局長ノ御答辯デ宜シウゴザイマスガ、
大體ニ今日此社會局邊リデ最モ發達シ
テ居ル組合ダト云ツテ居ル總同盟ナドハ
勞働ト資本トノ利害ハ絶對ニ相反スルモ
ノデアアル、ト云フ考デ此組合ヲ組織シ、
又事實勞働ノ爭議狀態ヲ見マシテモ、
至テ深刻ニ殆ド事業破壊ノ行動ガアル
ヤウニ承知致シテ居リマス、私ハ何等
其模様ヲ見ズ、資本家トモ未知ノコト
デアルカラ、唯間接ニ關係者カラ傳
ヘ聞イテ居ルダケデアリマスガ、現在
別子銅山ノ爭議ノ如キ、是ナドハ聞ク
所ニ依リマスレバ、非常ニ長イ歴史ヲ
持ツテ居ル鑛山デアアル、又所有者ノ住友
ガ勞働者ヲ遇スルコトハ非常ニ厚イヤ
ウニ承知致シテ居リマス、而シテ從來
ノ制度ガ病傷デ休養致シマス者ニハ、
無期限ニ休マセル、而シテソレニ勞働
賃銀ノ半バヲ與ヘルト云フ制度ニナッ
テ居リマスノヲ奇貨トシテ、最近ニ於
テハ前月ニハ極力能率ヲ擧ゲ、又努メ
テ休マズ、其一箇月ノ支拂高ヲ多クシ
テ、其翌月カラ無制限ニ休ム、サウシテ
平素働イテ居ル者ガ假病デ休ムト云フ
コトニナツテ居ル爲メ、只今假病ノ爲ニ

四十幾萬圓ヲ拂フト云フコトデアリマ
ス、而シテ是ガ生産スル所ノ二千萬斤
ノ銅ニ割付ケマス、一斤ニ對シ二圓
ニ値スルト云フ、ソレダケ空ニ支拂ハ
ナケレバナラス、サウシテ其他職工ヲ
解僱スル場合ニハ、巨額ノモノヲ與ヘ
ナケレバナラス、殊ニ甚ダシイノハ、今
危篤ダト唱ヘラレテ居ル住友家御本人
ノ其邸宅ニ暴レ込メテ暴行ヲスルトカ、
又其支配人ノ所ニ拔刀デ斬込メ、所
ガ隠レタモノデアアルカラ其家財道具等
ヲ非常ニ滅茶々々ニシテ去ツタト云フ
コトモ聞イテ居ル、又脅迫ラシテ居ル
カノヤウニモ聞イテ居ル、最近新聞ニ
傳フル所ニ依リマスレバ、水道マデモ
破壊シテ殆ド全工場ニ及ンデ居ルヤウ
ニ出テ居リマス、要スルニ斯ノ如クニ
シテ事業ヲ破壊シタナラバ、我國ノ產
業ト云フモノハ全滅スルト思フ、斯ウ
云フコトデ進ンデ行ツタナラバ、相互
モ立行クデアラウカ、全ク事業ガ不振
ニナレバ勞働者ヲ待遇スルコトガ出來
ナイト云フコトハ言フマデデアリマセ
ヌ、勞働者ハ生活ノ途ヲ失ヒ、資本家モ
自滅シ、國家モ亦自滅ノ外ハナイト云
フコトハ言フマデデアリマセヌ、然ル
ニ根本ニ於テ絶對ニ相容レナイモノヲ
斯ウ云フ主張ノ下ニ組合ガ出來テ居ル
ノヲ認メテ居ラレルノデアリマスガ、
併ナガラ今日ノ勞働者等ハ到底此安イ
賃金ヲ以テ忍ブコトハ出來ルモノデハ
ナイ、相當ニ知識及ビ能率ヲ擧ゲテ働

ク以上ハ、幾分ノ賃金ヲ拂ツテヤル必要
ガアル、而シテ工場ヲ經營シテ行ク以
上ハ、待遇ト賃銀ノ上ニ改メテ行カナ
ケレバナラスト思フ、吾々ハ各國ノ制
度ヲ見ルト、勞働組合ガ政治的ニ社會
的ニ行動シテ居ルカノヤウニ聞イテ居
ル、又我國ニ於テモ現ニ左様ナ傾向ガ
著シク認メラレテ居ルヤウニ考ヘマス、
私ハ斯ノ如クニシテハ救ハレル所以デ
ハナイト考ヘル、然ルニ從來社會局ニ
於テ御執リニナツタ事柄ハ、現在組織セ
ラレテ居ル勞働組合ト同ジ主張ノ下ニ、
資本家ト勞働者トハ絶對ニ容レナイモ
ノデアアルト云フ考ニ氣勢ヲ添ヒ、如何
ニモソレニ迎合セラル、カノ如キ事柄
ヲ屢耳ニシ、又曩ニ制定セラレタ案
等ニ於テハ、多クサウ云フ案ヲ認メテ
居リマスガ、一方ニ於テ是ハ政府ガ直
接ニ經營セラレルノデハナイガ、勞
資協調會ハアレダケノ多クノ基金等ヲ
有シテ居リマスガ、洵ニ效力ノ無イ機
關ノヤウニ存ゼラレマス、願ハクハ此
事ハ全ク勞働者ノ幸福及ビ産業ノ發達
スル上ニ於テ重キヲ置カレテ、漫ニ從
來ノ態度ヲ執ラレルコトハ、吾々甚ダ
不可解ニ考ヘテ居リマス、一應此事ニ
付テ社會局長ノ明確ナル御答ヲ望ミマ
ス

○長岡政府委員 只今ノ御質問ハ多岐
ニ涉ツテ居リマスノデ、或ハ伺ヒ漏ラシ
テ、答ヘ漏ラス所ガアルカモ知レマセ
ヌガ、若シ漏レマシタ所ガアリマシタ

ナラバ、尙ホ御質問ニ依リマシテ御答
ヘ申上ゲマス、社會局ノ態度ニ付キマ
シテ、色々御批評モアリ、又御叱リモ受
ケマシタガ、是ハ甚ダ恐縮ニ存ジマス、
御話ノ如ク社會局ト云フ役所ハ、餘リ
評判ノ良イ役所デ今迄ゴザイマセヌ、
併シ是ハ單ニ雇傭者側カラ評判ガ惡イ
ノミナラズ、勞働者側カラモ隨分攻撃
ヲ受ケテ居ルノデアリマス、資本案側
カラハ日本ノ産業ノ狀態ヲ顧ミズシ
テ、徒ニ勞働者ニ迎合シテ、産業ヲ破壊
スルガ如キ政策ヲ執ルト云フヤウナ苦
情ヲ受ケテ居リマスト共ニ、勞働者側
カラハ、社會局ハ一向社會政策ノ施
設ヲ勞働者ニシテ呉レヌ、徒ニ社會政
策ト云フ看板ヲ掲ゲルダケデ、其態度
ハ資本案ニ迎合スルノミデアルト云フ
ヤウナ又攻撃モ受ケテ居ルノデアリマ
ス、又只今ノ御説ノ如ク、勞資ハ協調シ
テ行クベキモノデアアル、其利害ハ相反
スルモノデハナイ、所謂共存共榮ヲ圖
ルコトガ一番大切ナコトデアルト云フ
コトハ、是ハ勿論御説ト寸分違ヒマセ
ヌ、併ナガラ其立場々々ニ依リマシテ、
多少意見ヲ異ニスルト云フコトモ、是
モ世ノ中デハ免レ難イコトデアリマシ
テ、社會局ガ資本案及勞働者カラ惡感
情ヲ懷カレテ居ルト云フコトハ、是ハ
社會局ガ兩者ノ孰レニモ偏セズ、穩健
著實ノ方針ヲ執ッテ居ル證據デハナイ
カト思フノデアリマス、尙ホ別子銅山
ニ付テノ御説モゴザイマシタガ、是ハ

マダ新シイ事件デアリマシテ、今日此
事ニ付テ詳細ニ批判ヲ致スト云フコト
ハ時機ガ宜シクナイヤウニ考ヘマスノ
デ、詳細ノ事ハ申上ゲヌ方ガ宜カラウ
ト思ヒマス、併シ只今迄私共ノ受ケテ
居ル報告ニ依リマス、洵ニ是ハ殘念
ナ事件デアリマスガ、此事件ニ付テ
ハ兩方ノ態度ニ於テ私ハ完全ナモノト
ハ考ヘテ居リマセヌ、是ハ使用者側ニ於
テモ——住友ノ總本家ノコトデハゴザ
イマセヌガ、別子ノ山ニ於ケル當局者
ノ態度ニ於テモ、多少遺憾ノ點モゴサ
イマス、又勞働者ノ態度ニ付テモ、遺憾
ノ點ガゴザイマス、兩方共遺憾ノ點ガ
アリマスガ、其詳細ノ事ハ私ハ今日申
上ゲルノニハ時機ガ如何カト考ヘテ居
リマス、尙ホ總同盟其他ノ勞働組合ノ
思想ノ傾向ニ付テ、色々御質問モゴザ
イマシタガ、勿論勞働組合ノ中ニモ亦
勞働組合ニ屬シテ居ナイ勞働者ノ間ニ
モ、相當左傾シタ分子ガアリ、左傾シタ
思想ガアルト云フコトハ事實デアリマ
シテ、是ハ何レノ社會ニ於キマシテモ
多少斯ウ云フ者ガアルト云フコトハ、
洵ニ殘念デハアリマスケレドモ、ドウ
モ是ハ事實トシテ認メナケレバナラス
ノデゴザイマス、或ハ國家ノ存在ヲ否
定スルトカ、現在ノ資本制度ヲ覆ヘス
ト云フ、左傾シタ共產的ノ思想ガ、行動
ニ現ハレマシタ際ニハ、是ハ國家ノ刑
罰——法令ニ依テ相當取締ラナケレバ
ナラスト考ヘマス、只今例ニ御舉ゲニ
ナリマシタ水道ヲ破壊スルトカ、器物
ヲ破壊スルトカ云フコトニ對シマシテ
ハ、是ハ刑法ノ命ズル所ニ依テ處罰スル
コトハ勿論デアリマスガ、其他共產主
義的ノ思想ヲ持チ、是ガ表面ニ現ハレ
テ來ル者ニ對シテハ、治安維持法ナリ、
治安警察法ナリニ依テ、相當取締ルベキ
モノト思フテ居リマスケレドモ、併ナガ
ラ大體ニ於テ今日大多數ノ勞働運動ノ
傾向ハ、只今申上ゲマシタ左傾分子ヲ
除キマシテハ、漸次穩健ニ赴キツ、ア
ルノデアリマス、將來ドウナツテ行クカ
ト云フコトハ別問題ト致シマシテ、要
スルニ大正十二年ノ秋頃ラ一ツノ轉期
ト致シマシテ、總テノ勞働組合ノ傾向
ハ漸次穩健ニナツテ參リマシタ、只今申
上ゲマシタヤウナ國家ノ存在ヲ否定ス
ルトカ、或ハ現在ノ經濟組織ヲ覆ヘス
ヤウナ主張ハ、大體ニ於テ拾テマシタ、
所謂社會改良主義ニ依テ勞働條件ノ維
持改善ヲ圖ルト云フ主張ニ段々變更シ
テ參ッテ居ルヤウニ私ハ考ヘテ居リマ
ス、併シ勿論一部ニハ左傾シタ分子ガ
アルト云フコトハ、決シテ否定出來マ
セヌガ、大體ニ於テ勞働運動ナリ、勞働
組合ナリノ傾向ハ、漸次穩健ニ赴イテ
居ルト云フヤウニ私共ハ承知致シテ居
リマス、尙ホ政治運動ニ付テノ御説モ
ゴザイマシタガ、是ハ寧ロ私共カラ考
ヘマスレバ、者勞働ガ政治運動ト云フ
コトヲ尊重致シマシテ、議會ヲ通ジテ
自己ノ主張ヲ貫カウト云フ傾向ハ、是
ハ排斥スベキモノデハナイト心得マ
ス、無論勞働組合自身ガ政治運動ヲ致
シマスコトニ付テハ、是ハ勞働組合ト
政黨トハ違ヒマスカラ、過日本會ニ於
テ内務大臣ヨリ御答辯申上ゲマシタ通
リデアリマスガ、併ナガラ勞働者ガ直
接行動ニ依ラズシテ、政治行動——議
會ヲ通ジテ自己ノ政策ヲ貫カウト云フ
コトニ付テハ、是ハ決シテ禁遏スベキ
モノデナイト斯様ニ心得テ居リマ
ス、先程初ニ申上ゲマシタヤウニ、御質
問ガ多岐ニ涉リマシタ爲ニ、御答ガ或
ハ漏レテ居ル所ガアルカモ知レマセヌ
ガ、若シ漏レテ居リマシタナラバ、更ニ
御質問ニ依テ御答ヘ申上ゲマス
○栗林委員 私ハ勞資ノ協調ハ何時ノ
時代デモ不可能ダト思ヒマス、デアルカ
ラ勞資ノ利益ノ一致點ヲ發見セラレテ、
適當ノ制度ヲ御設ケ下サルカドウカト
云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、又
政治運動及社會運動ハ、是ハ勞働黨ニ
一任シテ置イテ、組合ハ斯ル機關デハ
ナイ、斯ルコトヲ深ク戒メラレルト
ガ適當デハナイカト考ヘテ申上ゲタノ
デアリマス、ソレデ國民ガ總テノ政治
問題ニ干與スベキコトハ當然デアルケ
レドモ、組合ガ爲スベキコトデハナイ
ト思ヒマス、ソレカラ既ニ十二年度カ
ラ思想ガ善化シタト云フヤウナコトヲ
承リマシタガ、吾々モ其事情ハ多少知
リ得ル機會ヲ持ッテ居リマス、又露國ニ
於テ私有財産ヲ認メズシテ、赤化致シ

マシタ者ガ失敗ニ終ッテ、漸次從來ノ狀態ニ復歸シツ、アルト云フコトニ鑑ミマシテモ、我國ニ於テ決シテ斯カル主張ハ爲シ得ナイト信ジマス、併ナガラズル誤ツタ考デ組合ガ運動スルコトハイカスト思ヒマス、組合ハ所謂從來常識ヲ持ッテ吾ミガ考ヘテ居リマシタ如ク、米穀業ガアレバ米穀業ノ組合、酒屋ガアレバ酒業ノ組合、洗濯業ガアレバ洗濯業ノ組合ト云フモノガアルト等シイコトデ、此第一條ニ在リマス如ク、同一若クハ類似ノモノガ相集ッテ組合ヲ造ル、其組合ハ勞働者ノ賃銀及待遇ニ付テ自己ノ地位ノ向上或ハ總テノ改善ニ付テ組合ヲ立テマスコトハ、是ハ當然ノ事デアリマスガ、其他一般ノ政治及社會問題ニ關係シマスコトハ、組合ノ本質デハナイ、而シテ此組合ガサウ云フ渦中ニ這入リマスコトハ、適當ニ御考慮願フコトニ致シタイ、斯ウ申上ゲタ次第デアリマス、私ハ是デ質問ヲ終ハリマシタガ、逐條ニ於テ尙ホ質問ヲ致シマス

○清瀬委員 丁度今栗林君カラ極メテ本質的ナ點ニ觸レタ御發言ガアツタノデアリマス、順序ハ前後致シマスルガ、質問ノ便宜ニ依テ其場所ニ止マッテ政府ノ所見ヲ承リタイノデアリマス、栗林君ノ御意見ニハ苦モナク社會局長官ハ賛成サレタ、吾ミト云フノハ社會局ハ勞資協調主義デアルト云フコトモ發表セラレタ、勞働組合ハ大正十二年以

來左傾的傾向ヲ拾テタ、斯ウ云フ風ナ言葉モ御使ヒニナッテ居リマス、左傾的傾向ヲ拾テ、右傾的ニナッタト仰セニナリマシタ、右傾左傾ト云フ言葉ハ始終誤解ノ因ニナリマスノデ、避ケタイト思ヒマスガ、今此議員ノ多數ハ大體資本主義制度ニ疑ヲ持タヌ人デアアルト云フガ爲ニ、事實ヲ蔽ハレテ今ノ組合ノ現狀ヲ多少——之ニ薄イ絹デモ被セテ御評論ナサルト云フコトニナルト、國家ノ不幸ト私ハ思ヒマス、是ハ有リノ儘ニ審議サレンコトヲ希望スル、今栗林君ノ御説ハ、勞資協調ヨリモウ一步進シテ勞資一致ト云フコトデアアル、勞資ノ一致ト云フコトガ出來レバ、何人モ異存ハナイ、唯奈何セン今ノ資本主義制度、自由競争ト及ビ資本家ノ專制、此制度ノ下ニ於テ一致シヤウト思ウテモ仕方ガナイ、資本主義制度デハ當然賃銀制度ト云フモノガ起ル、賃銀制度ト云フモノハ一方ガ與ヘテ一方ガ取ルノデアリマスカラ、與ヘル方ハ少ク與ヘヤウトシ、取ル方ハ多ク取ラントスルノデアリマス、勞資ノ一致ト云フコトハ觀念上出來ナイ、若シ栗林君ノ深遠ナル御哲學デ、此資本主義制度サヘ拋棄サルレバ、勞資ハ直ニ一致スル、故ニ我國ニ於テ資本主義ガ蔓延シナカッタ明治以前ニハ勞資ハ、一致シテ居リマス、足袋屋ノ職人デモ、煎餅屋ノ職人デモ、皆一致シテ居ル、奈何セン機械ノ發明ト自由競争ノ原理ノ結果、今

資本主義制度デ以テ日本ガ政策ヲヤル以上、之ヲ拾テナイ以上ハ、矢張勞資ノ一致ハムヅカシイ、此ニ於テ問題ハ長官ノ言ハレル協調主義、此儘ニ資本主義ヲ認メテ置イテ、少クヤラント欲スル資本家ニハ澤山出サセ、澤山欲シイト云フ勞働者ニハ少シ譲レ、斯ウ云フ歩ミ寄リト云フ方法デ以テ進ムカ、ソレモ一ツノ考デス、サウカ若クハ今ノ資本主義制度ニ向ッテ制限ヲ加ヘテ、勞働者モ資本家モ、生産ト云フコトニ於テハ一デアルカラシテ、其一方ガ專斷ス權ヲ持ツノデヤナイ、資本家ガ專斷スルト云フ權限ヲ拋棄シテ、産業ノ管理、生産ハ勞働者ノ手ニモ發言權ヲ持ッテ、即チ資本主義ヲ改革スルト云フコトニスルカ、協調カ、資本主義ノ改革カ、此二ツノ外ハナイ、而シテ資本主義ノ改革ト申スト、直グ治安維持法ヲ御聯想ニナルケレドモ、治安維持法ハ私有財産制度ノ否認ヲ禁ジタノデアツテ、資本主義制度ノ否認ハ禁ジテ居リマセズ、ソレハ前年若槻內務大臣或ハ當時ノ小川司法大臣ト、吾ミ議論ヲ上下シタコトデアリマス、私有財産制度ソレ自身ニ向ッテ、總テノ人ニ所有權制度ヲ否定スルト云フコトハ、我國ニ於テ良イカ惡イカ知ラヌガ、兎モ角モ此議會ハ反對シテシマッタ、私有財産制度ノ否認ハ反對サレテ居ルケレドモ、資本主義制度ノ改革ト云フコトハ、マダ反對サレテ居リマセヌ、ソレデ今申ス第二ノ方法

タル勞資協調ノ外ニ、資本主義制度ノ改革ニ依テ、勞働者ノ解放ヲ得ヤウト云フ主張ハ、矢張是レ穩健ノ主張デアリ、人間トシテ持テ得ベキ思想デアリマセウ、是ハ段ヲ切ッテ御返答ヲ求メナイデモ御認メ下サルコト、思ヒマス、ソコデ組合ノ本質デアリマスルガ、今回ノ立法ノ出發點ト云フモノガ、理想主義デ、日本ノ勞働組合ヲドウシヤウト云フ目標ヲ附ケテスルノデハナク、今ノ先ニモ總理大臣ガ仰シヤッタ、善カレ惡シカレ勞働組合ガ出來テ居ルカラ、此現實ヲ以テ組合法ヲ作ラウ、即チ現實主義デアラレマスルガ故ニ、此組合法ト云フモノハ現在ノ勞働組合ト云フモノニ略ビタリ合フ法律デアアルカドウカラ第一ニ檢討シナケレバナラス、先ニモ書類ノ提出ヲ私ガ求メマシタ時分ニ、男ノ子ガ出來テ居ルノニ、女ノ著物ヲ註文シテモ著ラレナイ、日本ノ勞働組合ガ勞資協調主義デハナクシテ、資本主義改革主義デアルト云フコトガ決マッタナラバ、矢張協調主義ノ著物ヲ持ッテ來テ、之ニ著セルト云フコトハ不能ナコトデアアル、今ノ組合ノ構成ガ總テノ産業ノ組合ノ勞働者ヲ一ツニ纏メル、即チ合同主義デアルト云フコトガ事實デアルトスレバ、ソレハ例外視シテ、同一ノ産業、同一ノ職業デナイト云フト、組合チャナイト云フコトニ法律ガ決メテモ、女ノ子ガ出來テ居ルノニ、男ノ帽子ヲ買ウテ來ルヤウナモノデアアル、誰

資本主義制度ノ改革ニ依テ、勞働者ノ解放ヲ得ヤウト云フ主張ハ、矢張是レ穩健ノ主張デアリ、人間トシテ持テ得ベキ思想デアリマセウ、是ハ段ヲ切ッテ御返答ヲ求メナイデモ御認メ下サルコト、思ヒマス、ソコデ組合ノ本質デアリマスルガ、今回ノ立法ノ出發點ト云フモノガ、理想主義デ、日本ノ勞働組合ヲドウシヤウト云フ目標ヲ附ケテスルノデハナク、今ノ先ニモ總理大臣ガ仰シヤッタ、善カレ惡シカレ勞働組合ガ出來テ居ルカラ、此現實ヲ以テ組合法ヲ作ラウ、即チ現實主義デアラレマスルガ故ニ、此組合法ト云フモノハ現在ノ勞働組合ト云フモノニ略ビタリ合フ法律デアアルカドウカラ第一ニ檢討シナケレバナラス、先ニモ書類ノ提出ヲ私ガ求メマシタ時分ニ、男ノ子ガ出來テ居ルノニ、女ノ著物ヲ註文シテモ著ラレナイ、日本ノ勞働組合ガ勞資協調主義デハナクシテ、資本主義改革主義デアルト云フコトガ決マッタナラバ、矢張協調主義ノ著物ヲ持ッテ來テ、之ニ著セルト云フコトハ不能ナコトデアアル、今ノ組合ノ構成ガ總テノ産業ノ組合ノ勞働者ヲ一ツニ纏メル、即チ合同主義デアルト云フコトガ事實デアルトスレバ、ソレハ例外視シテ、同一ノ産業、同一ノ職業デナイト云フト、組合チャナイト云フコトニ法律ガ決メテモ、女ノ子ガ出來テ居ルノニ、男ノ帽子ヲ買ウテ來ルヤウナモノデアアル、誰

モ著ル者ガナイ届出ヲシナイ、斯ウ云フ結果ニナルノデアリマスガ故ニ、是ハ隱サズニ、此組合ノ實體ニ付テ、政府ノ所見ヲ御伺ヒ致シタイノデアリマス、ソレハ此法律自身ニ當ッテ見マスルト、第二條ニ關係致スノデアリマス、即チ「労働條件ノ維持、又ハ改善、」是ガ即チ勞資協調主義デス、今ノ労働條件ト言ヘバ、時間ト賃金、是ノ維持改善、現在ノ雇傭契約ノ維持改善ト云フ、今ノ日本ノ労働組合ノ一致シタル、又ハ例外少ナキ目標ヲ御考ヘニナルカ、ソレデ私ハ其組合ノ綱領ナドヲ先刻拜見シタイト申上ゲタ、マダ出マセヌガ故ニ、私ノ持ッテ居ル此書物ノ記録カラ申シテモ、丁度栗林君モ反對ノ立場カラ御引用ニナッテ居ルガ、最モ穩健ト言ハレテ居ル日本労働總同盟ト云フモノハドウ云フ綱領ヲ持ッテ居ルカト云フト、是ハ三箇條ダケデアリマスカラ、一寸讀ンデ見マス、「我等ハ團結ノ威力ト相互扶助ノ組織ヲ以テ經濟的福利ノ増進並ニ知識ノ啓發ヲ期ス」是ハ宜シイ、次ニハ「我等ハ斷乎タル勇氣ト有效ナル戰術ヲ以テ資本家階級ノ抑壓、迫害ニ對シ徹底的ニ闘争センコトヲ期ス」三ハ「我等ハ労働者階級ト資本家階級トガ兩立スベカラザルコトヲ確信ス、我等ハ労働組合ノ實力ヲ以テ労働者階級ノ完全ナル解放ト自由平等ノ新社會ノ建設ヲ期ス」此三ツガ今日ニ至ルマデ彼等ノ綱領ト致シテ居ル、又別ニ宣言ト云フモノガアッテ、

之ヲ布衍シテ居ルモノガアリマスガ、時間ヲ取リマスルカラ引用致シマセヌ、雇傭條件ノ維持改善ナント云フコトガ主タル目標デハナイ、ソレカラ又機械労働組合聯合會ト云フモノガアリマス、是ハ別ニ後ニ此點ヲ御聞キシタイノデアリマスガ、此際併セテ引用致シテ置キマス、此労働組合法ハ内地ニ於ケル労働者ナルモノガ、外國ト聯絡ヲシテモ宜イカト云フコトニ關係シマスガ、是モ有リノ儘ノ宣言ヲ此處デ讀上ゲマス「此ノ聯合ガ同一産業労働者ノ全國的聯合ノ素地トナリ總テノ労働團體ト聯絡提携シ進ンデ全世界ノ労働者ノ大團結ニ到達センコトヲ究極ノ目的トス」印刷工組合聯合會ト云フモノガアッテ、是モ斯ウ申シテ居ル「我ガ印刷工聯合會ハ資本家階級ト労働者階級トノ間ニハ共通ノ利害ナルモノ、絶對ニ存セズ、唯兩者ノ間ニハ絶エザル利害ノ衝突アルノミナルコトヲ自覺シ此意識ノ下ニ全國ノ印刷工業労働者ヲ階級的ニ團結シ有力ナル無産階級運動ノ一部タラント欲スルモノデアル」其他中略致シマシテ「現在ノ社會的不正ガ資本主義的組織即チ勞力ヲ商品トシテ取扱フ制度ニ基礎ヲ置クモノナルガ故ニ之ニ代ルベキ新シキ協同的社會生活ヘノ道ヲ拓カントスルモノデアル」斯ウスレバ勞資ノ衝突ガナクナル、官業労働總同盟官業デ政府ノ事業ヲヤッテ居リマス是ハ一番穩健ト云フ團體、是ガ「團結ノ力ニ

依リ著實ナル方法ヲ以テ労働條件ノ維持改善並ニ社會改善ノ目的ヲ貫徹スルコト」之ガ大體協調主義ト一致致シテ、尙ホ且ツ社會改善ノ目的ヲ持ッテ居リマス、其他世間デ言ハレル左傾團體ト言ハレル評議會トカ、何トカ言フ所ノ綱領ガアリマスガ、此處デ一々引用スルコトハ致シマセヌ、私ハ主トシテ右傾的ノ組合ノ綱領ヲ此處デ引用シマシタ、ソレデモ社會局長官ノ云ハレル協調主義デハ決シテナイ、維持改善トカ協調ヲ以テ致シテ居ルト云フノデナクシテ、本來ノ目標ト云フモノハ矢張資本主義制度ヲ變更セヨ、サウスレバ此労働者ノ争ヒガナクナル、勞資相合スルト申シマスガ、栗林君ト同ジコトニナル、サウ云フ目標ヲ持ッテ居ルモノデアリマスガ、此組合法ハ今長官ノ言ハレルヤウニ、勞資協調ヲ以テ組合ノ本則ナリトシ、協調主義以外ノモノハ、是ニハ嵌メ難イト云フヤウナ立案デアリマセウカ、先ヅ此一點ヲ伺ッテ置キタイノデアリマス

○長岡政府委員 清瀬君ノ御質問ノ前段中ノ此勞資ノ協調主義、若クハ資本制度ニ對スル改革ト云フヤウナ點ニ付テ、多少哲學的ノ御意見ガアッタノデスガ、之ニ對シマシテ私共ノ考ヘテ居ル事ヲ申上ゲルノモ一向差支ゴザイマセヌガ、斯カル根本問題ニ對シテハ、敢テ答辯ヲ求メナイヤウナ御話デゴザイマシタカラ、時間ヲ省ク爲ニ省略致シテ置キマス、日本労働總同盟其他ノ労働組合ノ綱領ヲ御朗讀ニナリマシテ、其主張ヲ御推察ニナッタノデアリマスルガ、是ハ餘程此言外ノ所謂眼光紙背ニ徹スル意味ヲ以テ、御讀ミニナッテ戴クコトヲ希望スルノデアリマシテ、兎角此同盟ノ宣言トカ、組合ノ決議トカ云フヤウナモノハ、言葉ヲ盛ニシマシテ、士氣ヲ鼓舞スルト云フヤウナコトニ走ル傾キガアルノデアリマスルカラシテ、此綱領若クハ宣言ニ現レテ居リマスル所ノ文字其モノヨリモ、組合ノ眞意ガ何レニ在ルカ、其組合ガ如何ナル事ヲシテ居ルカト云フ事ニ付テ、御著眼ヲ願ヒタイノデアリマス、殊ニ労働總同盟ノ只今御讀上ゲニナリマシタ此綱領ハ、餘程舊イモノデアリマス、歐羅巴大戰後思想界ノ變動ノ甚シカタトキニ作ッタ綱領文字ヲ、其儘今日ニ踏襲シテ居ルノデアリマスガ、實際ニ於キマシテハ決シテ是ハ私ハ強辯シテ申上ゲルノデアリマセヌガ、日本労働ハ大正十三年ノ大會並ニ大正十四年ノ春ノ大會ニ於テ、事實上ノ行動ニ於キマシテハ、文字ノ一部ヲ緩和スルガ如キ決議ヲ致シテ居リマシテ、彼等ガ非常ナル犠牲ヲ拂ヒマシテ、後ニ日本労働評議會ヲ組織致シマシタ分子ヲ除名致シタコトヲ見マシテモ、總同盟ノ行キ方、其所謂社會改良主義ニ赴キツ、アルト云フコトノ觀察ハ、決シテ此薄絹ヲ脱イタ所ノ實際デハナイト考ヘテ居リマス、殊ニ日本労働ノ評議會ノ如キハ、總

同盟ヲ準備シタ團體デアリマスガ、此綱領ハ矢張勞働條件ノ維持改善ヲ目的トスルト云フヤウナ事モ書イテ居ルノデアリマス、是ハ實際ノ方カラ行キマシテモ、綱領宣言等ヲ其儘御受入レニナルト云フト、此實際ノ行動ト多少違ッテ居ルヤウナ點モアルノデゴザイマス、私ガ先程大正十二年ト云フコトヲ申上ゲマシタガ、ソレハ總同盟ガ他ノ團體ト提携ト云フヤウナコトニ對シテ、之ヲ棄テルト云フヤウナ態度ニ出テ居リマシタガ、今日斯ウ云フヤウナ態度ニ出テ居ルト云フコトヲ見マシテ、總同盟ノ態度ガ右傾シテ居ルト云フコトハ、決シテ是ハ強辯デハナイノデ、事實デアリマス、詳細ニ申シマスレバ尙ホ御了解ヲ願ヘルト思ヒマスガ、餘リニ長クナリマスノモ何デアリマスカラ、總同盟ノ行動ニ付キマシテハ詳シクハ申上ゲマセヌ、唯之ニ關聯シマシテ第一條ノ規定ニ付テノ御質問デゴザイマシタガ、之ガ組合ノ實體ニ非常ニ相反シテ居ルト云フヤウナ御質問、乃至御意見ノヤウニ伺ヒマシタケレドモ、日本ノ勞働組合ノ發達ハ獨特ノ傾向ヲ取ッテ居ルノデゴザイマシテ、只今御引用ニナリマシタ日本勞働總同盟ノ前身友愛會ト云フヤウナモノハ、其當時ハ一ツノ勞働組合デアリマシタノデ、此職業、産業ヲ限ラズ稍程度ノ高イ勞働者ノ一團トナツテ友愛會ナルモノヲ組織ヲ致シマシタガ、其組合ノ實力ガ増大致

シマシテ、又其組織ガ完備スルニ從ヒマシテ、純然タル組織デナイト云フノデ、今日産業別カラ職業別或ハ企業別ニナツテ居ルノデアリマス、左様ニ利害一致シタモノガ集ッテ、一ツノ勞働組合ヲ造ルト云フコトハ、組合運動ノ自然ノ傾向デアリマシテ、現在此勞働組合ト云フ形ヲ遺シテ居リマス、例ヘバ關東合同勞働組合、京都合同勞働組合、神戸一般勞働組合、是等ハ職業別、産業別ニ依ラズシテ、組合ヲ造ッテ居リマスガ、是ハ過渡的ノモノデアアル、將來是ガ増加シ、組織ガ完全致シマス、職業別産業別ニ、分岐發達スル傾向ヲ持ッテ居ルノデアリマス、隨テ現在アル所ノ合同組合ニ對シテハ、是ハ過渡的ニ認メラレル、而シテ將來是ガ、自然ノ趨勢ニ依テ分岐發達致シマシタナラバ、是亦彼等ガ自由ニ職業別、産業別ニ組合ノ組織ヲ變更スルコトヲ認メル、尙ホ又將來起ル所ノ過渡的ノ合同組合ガアルニ致シマシテモ、此存在ハ法律ハ決シテ否認スルモノデハアリマセヌカラ、是等ノモノハ、一時的ノ勞働組合法ニ依ラザル合同組合ヲ造ッテ、次第ニ發達シマシテ、今申シタ經路ヲ取ッテ、職業別、産業別ニナリマシタナラバ、彼等ノ希望ニ依テ第一條ノ規定ニ從ヒ、組合トナルコトモ差支ナイ、是等ノ點ハ主義ニ於テ氷炭相容レザルモノ、ヤウニ見エマスケレドモ、事實問題トシテハ、實ハ餘リ大シタ差異ハナイ、第一條ノ規

定ニ依テ現在ノ組合ノ實體ヲ無視シタト云フ御非難ニ對シテハ、聊カ其冤ヲ雪ギタイト思ヒマス
○清瀬委員 私ノ質問ハ總同盟ヲ辯護シテ下サイト云フノデモナク、又是ハ總同盟ノ辯護ニモナルマイト思ヒマス、兎モ角今ノ日本ノ勞働組合ノ殆ド全部ト云フモノハ、眼光紙背ニ徹スルナラバ、如何カ知レマセヌガ、單ニ協調主義デハナク、資本主義ノ改革ト云フコトヲ掲ゲテ居ルト云フコトハ、決シテ彼等ニ對スル辯明デハアリマセヌ、彼等ニ對スル侮辱ニナルト思フソレハ別ト致シマシタ所デ、簡單露骨ニ申セバ、社會改造ヲ目的トスル勞働組合ニハ、組合法ハ適用サレマセヌカト云フコトデアアル、今申シタ數種ノ宣言綱領ヲ掲ゲタ以上ハ、之ヲ實行スルモノト見ナケレバナラヌ、又之ヲ實行セント欲シテ、日々心膽ヲ碎イテ居ルモノアルコトヲ私知ッテ居リマス、ソレハ政府ノ言ハレル勞働條件ノ維持改善ト云フモノニハ嵌ラヌ、延イテハ十九條ニ依ル所謂安寧秩序ヲ害シタリ、公益ヲ害スルモノデアアルト云フノデ、屈出ラシテモ受理ニナラヌノデアリマスカ
○長岡政府委員 多少私ノ申シ方足リナカッタカモ知レマセヌガ、私、甚ダ辯舌ニ不調法デアリマスカラ、其點ハ幾重ニモ御容赦ヲ願ヒタイ、先程社會局ガ勞資ノ協調、共存共榮ヲ圖ッテ居ルト云フコトヲ申シマシタノハ、栗林君

ノ御質問ニ於テ、社會局ノ態度ヲ御批評ニナリマシタノニ對シテ、社會局トシテハ斯ウ考ヘテ居ルト云フコトヲ申シタノデアリマス、總同盟ニカラ入レテ申シタコトハ相濟マヌコト、思ヒマスガ、大體思想的系統ニ依テ考ヘマスト、國家主義的社會改良政策ニ依テ、勞働條件ノ維持改善ヲ圖ルト云フ團體ノ人數ガ一番多イト認メテ居リマス、又左傾右傾ト云フ文字ガ御氣ニ入ラヌヤウデアアルガ、之ニ對シテ組合ト稱セラレテ居ルモノデ、其中ニ無政府主義系ト看做サレルモノモアリマス、此右傾派、左傾派ト云フ文字ヲ假ニ使フコトヲ御許シ下サリマシタナラバ、右傾派ノ數ガ一番多ク、左傾派ガ一番少ク、其中間ニアルモノガ其人數ニ於テモ、組合ノ實力ニ於テモ、右傾派ニ次ギ、左傾派ヨリ聊カ多イト云フ狀況ニナツテ居ルノデアリマシテ、私ノ申シマシタモノモ、綱領宣言ニ無論頓著セズニアルノデハアリマセヌガ、大體組合ノ行動、人物ノ主義主張等、色々ノ方面ヨリ觀察致シマシテ、今申シマシタヤウナ色分ケニナル、今日ノ日本ノ勞働組合ノ傾向ヲ概觀シテ、斯ウ申シテ宜カラウト思ヒマス、ソレデ第一條ノ維持改善ヲ圖ル手段トシテ、如何ナル場合ニ解散ノ規定ニ當嵌マルカト云フ御質問デアリマシタガ、此解散ノ規定ハ其時ノ實際ノ狀況ニモ依リマスガ、組合ノ主張ハ單ニ社會改良政策、或ハ社會政策ト云フヤウナモノニ

ナルベキモノデアル、ソレ以外ニハ、總テ行政官廳ガ解散ヲ命ズルコト云フヤウナ、斯カル窮竄ナ考ハ持ツテ居リマセヌ、唯組合ノ行動ガ國家ノ存在ヲ否定スル

ノトシテ、屈出ヲシタ場合ニ、之ヲ受理サレルカ、即チ本法ノ適用ガアルカト云フノデアリマス

ト、是ハ全ク勞働組合ノ生命ト云フモノガ、時ノ政府ノ心次第デアッテ、左様ナ薄弱ナコトデハ、結社ノ自由ト兩立シ難イト思ヒマスガ、日本デモ國際聯盟ニ加盟シテ居ルノデアリマスガ、平和會議ニ於テ適法ナル結社ノ權利ト云フコトガアリマスガ、此適法ナル結社ノ權利ト云フコトハ、法律決メレバ適當デハナイカト云フ議論モ出マスガ、此意味ハ平和會議ノトキ、各國ノ言行ヲ參酌シテ英、佛、米、伊ソレ等ノ國ニ於テ保護サレテ居ル勞働者ノ結社權ハ、適當ナル結社權ト見ル外アリマセヌ、然ルニ我國ダケガ其時ノ行政官廳——警察ノ方ニナリマスカ何ニナリマスカ知リマセヌケレドモ、サウ云フ者ノ鉛筆一本デ解散サレタリ受理ヲ拒絕サレタリスルヤウナコトデハ、日本ノ結社權ト云フモノハ薄弱デアルト云フ謗ヲ免レヌト思ヒマス、勞働組合ハ結社ノ自由ヲ維持スルコト云フコトヲ御主張ニ相成リ、ソレカラ日本ノ組織カラ生レテ來タ所ノ子供デアッテ、之ニ對スル法律デアルトスレバ、此出來タ所ノ子供ニ相當ナ洋服ヲ造ルト云フコトデナケレバナラス、是ハ日本ダケデハナイ、何處ノ國デモ廣イ意味ニ於ケル勞働組合ハ、勞働條件ノ維持改善ニ局限セズ、資本主義ノ改革ヲ云々スルノデアルカラ、其主張ハ決シテ勞働組合ノ存在ヲ危クスルモノデハナイト云フ御決心ガ無ケレバ、ソレダケノ膽ガ据ハラナ

ケレバ斯ウ云フ法律ハ出セルモノデナイト思ヒマス、今御配付ニナッタモノハ舊イ法律デ、佛蘭西ノ千八百八十四年、英吉利ノ千八百七十一年ノ舊イ法律デアッテ、未ダ社會改革ヲ知ラヌ前後ニ出來タモノデアリマスガ、是ハ經濟上吾々ヲ支配スル——經濟學ノ主張ヲ持チ、將來之ヲ生命トシテ遂行スル勞働組合ヲ認メルダケノ法律デナクテハ、無用ニ歸シハシナイカト思フノデアリマス、ソレカラ第十七條第十九條ニ公益ト云フコトガアリマスガ、即チ十七條十九條ニハ勞働組合ノ行動ガ安寧秩序ヲ紊リ又ハ公益ヲ害スル場合ニハ取消ヲ命ジ、解散ヲ命ズルコトガ出來ルトアル、又治安警察法ニ於テモ安寧秩序ヲ害スル結社ハ解散ヲ命ゼラレマス、新聞紙法ニ於テモ朝憲案亂、安寧秩序ヲ害スル場合ニハ發行禁止ヲ命ズルデアリマスガ、勞働組合ハ公益法人デハナク、勞働組合自身ノ爲ニヤルノデアル、即チ公益ノ爲メニ結社スルノデハナイ、ソレガ公益ニ反スルト云ッテ解散ヲサレタリスルト云フノハ了解ニ苦ミマスガ、ドウ云フコトカラ御發案ニナツタカ其點ヲ承リタイ

○長岡政府委員 先程ノ前段ノ御質問ニ對シマシテハ、內務大臣カラ御答申上ゲナケレバ御不滿カト考ヘマスガ、併シ一端ダケ私カラ申上ゲマスカラ忍ンデ御聽キヲ願ヒタイ、此解散ノ規定ハ「ベルサイユ」ノ條約ノ四百二十何條

ナルベキモノデアル、ソレ以外ニハ、總テ行政官廳ガ解散ヲ命ズルコト云フヤウナ、斯カル窮竄ナ考ハ持ツテ居リマセヌ、唯組合ノ行動ガ國家ノ存在ヲ否定スル——經濟組織ノ變更改良ト云フコトデアリマシタガ、是ハ程度問題デアリマシテ、全然現在ノ產業組織ヲ破壊スルト云フモノト、之ニ幾分ノ改良進步ヲ加ヘテ行カウト云フモノトハ、自ラ段階ガアルノデアリマシテ、此解散規定ヲ適用スル組合ノ行動ハ、如何ナルモノヲ豫想シテ居ルカト言ヘバ、國家ノ存在ヲ否定スル、公然無政府主義ノ主張ヲ貫徹スルト云フヤウナモノハ、之ニ依テ解散ヲ命ズルノデアリマスガ、併ナガラ十九條ノ解散規定ハ、單ニ勞働組合ノ法的存在ヲ剝奪スル、否認スルノデアリマスシテ、事實上ノ解散ヲ命ズルコトハ出來ナイト心得テ居リマス

○清瀬委員 解散ノコトハ又後ニ伺ヒマスガ組合ノ屈出ヲシテモソレガ解散デモ食フヤウナ綱領ヲ持ツテ居ルナラバ受理ヲシマイ、サウスルト、私ノ曩ニ引用致シマシヤウナ、斷乎トシテ資本主義制度ノ變革ヲ期スト云フヤウナ綱領ヲ持ツテ居ル以上ハ、ソレヲ實行スルモノト見ナケレバナラス、私ハ決シテ今ノ勞働團體中ノヒドイモノヲ取ツテ言ツタノデハナイ、ソレ故ニ比較的穩健ナ官業勞働總同盟ヲ取ツテ言ツタノデアリマスガ、サウ云フ綱領ヲ持ツテ居ルモノガ、而モ之ヲ眞面目ニ實行スルモ

ノトシテ、屈出ヲシタ場合ニ、之ヲ受理サレルカ、即チ本法ノ適用ガアルカト云フノデアリマス

○長岡政府委員 先程ノ前段ノ御質問ニ對シマシテハ、內務大臣カラ御答申上ゲナケレバ御不滿カト考ヘマスガ、併シ一端ダケ私カラ申上ゲマスカラ忍ンデ御聽キヲ願ヒタイ、此解散ノ規定ハ「ベルサイユ」ノ條約ノ四百二十何條

デアリマシタカ、勞働者ノ團結權ヲ否認シナイト云フコトニ關聯シテ、アリマスガ、是ハ無論「ベルサイユ」條約ノ精神ハドコマデモ遵奉シナケレバナリマセヌガ、只今ノ御説ノ佛蘭西、英吉利等ニ於ケルコトハ、日本ニ於テハ同様ニ解シテ居リマセヌ、ソレハ日本獨特ノ事情ガアリマス、例ヘバ佛蘭西ニ於テ差支ナイトシテモ、我國ノ國體ニ觸レルト云フヤウナ場合ニハ、此十九條ニ依テ解散ヲ命ズルノハ致方ナイト思ヒマス、唯是ハ地方長官若クハ警察署長ト云フ御意見デアリマシタガ、十九條ノ解散命令ハ主務大臣ニ止メテ置キマス、ソレカラ受理云々ノコトモアリマシタガ、是ハ先程申上ゲマシタヤウニ、第二條ニ依テ受理スル外ハナイト考ヘマスカラ、十九條ニ依テ解散ヲ命ズルノハヨクノ場合ノヤウニ御承知置ヲ願ヒマス、尙ホ十七條十八條ノ公益云々ト云フコトモ、是モ餘程狭イ意味ニ解釋シテ居ルノデアリマシテ、先程申上ゲマシタヤウニ國家國體ノ本質ニ觸レルト云フヤウナ場合、共產主義的ノ主張ト無政府主義的ノ主張ヲ綱領ニ掲ゲ、決議ヲ致シ、若クハ行動ニ現ハスト云フヤウナ場合ニ限ル積リデアリマス、單ニ一般ノ公共生活ニ不利益デアルト云フヤウナ廣イ意味ニハ當局ハ解釋致シテ居リマセヌ

○清瀨委員 サウスルト我國ノ國體ニ害ガアリ、或ハ何ト仰シヤイマシタカ

公共生活ニ害ガアル、サウスルト事デアルト云フト、今マデ使ヒ來ッタ安寧秩序ニ反スル場合デ事ハ足リハ致シマセヌカ、是ハ懇談デスガ、公益ト云フコトヲ書イタノヲ私共今御尋シタ第二條ノ維持改善ニ關聯シテ實ハ考ヘテ見タノデス、安寧秩序デ以テ行ケバ、從前長イ間日本ノ社會組織ハ之デ保タレテ來テ居ルノデアツテ、茲ニ又公益ヲ附加ヘラレルト云フコトハ、維持改善以外ノヤツハ是ハ公益ニ反スルト云フコトデ押潰サレハシナイカト考ヘタガ故ニ御質問スルノデアリマスガ、今長官ノ御説ノ通りナレバ、安寧秩序ニ反シタト云フ事ダケデ宜クハナイカト考ヘルノデアリマス、此點ハ如何デアリマスカ

○長岡政府委員 安寧秩序ヨリモ公益ハ多少廣イ意味ナルコトハ御説ノ通りデアリマスルガ、安寧秩序ダケデアリマス、必ズシモ十九條ノ解散權ヲ茲ニ掲ゲル必要ハナイ、御承知ノ治安警察法ノ第八條ノ安寧秩序ノ場合ニハ、結社ヲ事實上ノ解散マデ命ズルコトガ出來ルノデアリマスカラ、此公益ト云フコトハ是ハ極メテ狭義ニ解スル、是ハ極メテ狭イ意味ニ解スル積リデアリマスケレドモ、稍安寧秩序ヨリモ廣キニ涉ルト云フコトハ想像シテ居ル次第デアリマス、具體的ノ問題ニナリマシテハ自然社會ノ事情、其時ノ實際ノ狀況等ニ照シテ篤ト考慮シナケレバナラスト存ジマスルケレドモ、今日豫想シテ

居リマスル公益ト云フノハ、只今ノ御話ノ公共生活ヲ不利益ニ導クト云フヤウナ廣イ意味ニ解釋致シテ居リマセヌ、先程私ガ申上ゲマシタ公共生活ニ多少不利益ヲ持來スト云フヤウナコトヲ以テ、公益ヲ害スルモノトシテ處分スルト云フヤウナ考ハ吾ミハ持ッテ居リマセヌ

○清瀨委員 同ジ公益ノ文字デ、十七條ニナリマス決議ガ公益ニ反スル場合ハ取消サレマスガ、是ハ矢張勞働組合ノ春秋大會ト云フ風ナ場合ニ、今朝讀シタヤウナ勇壯活潑ナ決議ヲスルト云フ場合ニ、其決議ノ文字ガ公益ニ反スルト云フ風ニ意味ヲ取ラレルト云フト、殆ド頻々トシテ之ヲ適用サレルコト、思ヒマス、斯ノ如ク爭ノ生ズルヤウナ種ヲ茲ニ蒔イテ置イテ、其時分ニ役人ノ方デハ動モスルト云フト虫ノ置キ所ガ惡イデ以テ解散、勞働者ノ方デハ疳癪ヲ起シテ以テ駐在所ヲ打壞セト云フコトニナルト云フヤウナ事ニナリマス、洵ニ此組合法ト云フモノガ私共國民ニ對シテ相濟マス、デアリマスルガ故ニ今具體的ニ御説明相成リ難イヤウナモノナレバ、元來ガ法人ト云フモノデスカラ、法人ニ付テ公益主義ト云ヒマス、吾ミ學生時代カラ習ッテ居ル公益法人ト私益法人ト云フコトニナル、是ハ明ニ公益法人デナイノニ公益ニ反スルト云ウテ取消サレテハ土臺立ツ瀨ガナイノデアアル、何卒十分ニ御考慮ヲ願ヒタイト思ッテ居リマ

ス、同ジ所ニ停滯致スノモ他ノ同僚ニ濟ミマセヌカラシテ、モウ一ツダケ伺ヒタイ、勞働組合ヲ職業別產業別ダケノ組合ニ限ラレタノハ、單ニ便宜ノ問題デアリマス、是モ思想的背景ガアツテ、外ノ勞働者ガズツト聯合ヲスルト云フト、無產階級ノ團結ノヤウニナツテ困ル、サウスルト風ナ深イ御考ガナイノデアリマセウカ、吾ミ審議スル參考ニ相成リマスガ、單ニ今ノ各種ノ勞働者ノ這入ッテ居ル組合ハ、過渡的モノダカラ何レソレガ無クナツテ、職業別產業別ニナルト云フ便宜問題ノヤウニ御説明ニナツタガ、坊間傳フル所ニ依ルト云フト、如何ナル種類、如何ナル階級ノ勞働者ヲモ入レル合同組合ニスルト云フト、所謂階級闘爭ト云フコトニ導クカライケナイノダト云フ御意見ガ、政府側ニ在ルト云フコトヲ聞イテ居リマスガ、サウスルト思想的背景ノモノデナクシテ、單純ニ立法ノ便宜デアッタデアリマセウカ、之ヲ伺ッテ其次ニ行キタイト思ヒマス

○長岡政府委員 公益ノ問題デゴザイマスルガ、是ハ先ヅ御意見ノ相違ニナレバ是ハ致方ナイノデアリマスガ、此公益ハ民法ノ公益法人ト云フヤウナ意味ノ公益ト云フ意味デ掲ゲタ次第デハゴザイマセヌ、此點ハ御諒承ヲ願ッテ置キタイノデアリマス

「松浦理事委員長席ヲ退キ森田委員長復席」

尙ホ第一條ノ職業別產業別ノ御話デゴ
ザイマシタガ、是ハ敢テ斯ウ云フ「ワン
ビッグユニオン」ト云フヤウナモノヲ
恐レテ斯ウシタト云フヤウナ深い意味
ガアルノデハアリマセヌノデ、先程繰
返シ申シマシタヤウニ、又本會議ニ於
テ内務大官ヨリ御答申上ゲマシタ通り、
大體ニ於テ利害關係ノ密接シタモノガ
一ツノ組合ヲ造ルト云フコトハ是ハ自
然デアル、是ガ實情ニ適シタ立法デア
ル、此組合法ノ提案ノ理由ノ中ニモ法
律上労働者ノ團結ヲ公認スルト共ニ勞
働組合運動ニ據ルベキ基準ヲ與ヘ其ノ
運動ヲシテ力メテ秩序的ナラシムルコ
トヲ緊要ナリト認ム、是レ本案ヲ提出
シタル所以ナリトゴザイマス通り、大
體利害關係ノ相反シテ居ルモノ、吾々
ノ下ニ使ッテ居ル小使トカ「タイピスト」
ト云フヤウナ者ガ、紡績會社ノ紡績女
工ト組合ヲ造ッテ見タ所デ、是ハ全ク實
情ニ合ハナイ、矢張り利害關係ノ密接シ
タ者ガ一ツノ組合ヲ造ルト云フコトガ
是ガ自然デアル、又大勢デアル、ト云フ
ダケノ意味デアリマシテ、此組合ガ聯
合ヲ造ルト云フコトハ決シテ事實上禁
ズルモノデモナケレバ、寧ろ法ノ第九
條ニ聯合會ト云フモノヲ暗示シテ、法
外ニ——法律ノ外ニ聯合組合ト云フモ
ノガアルト云フコトヲ暗示シテ居ル位
ノモノデアリマスルカラ、同一類似ノ
職業ニ在ル者——産業ニ在ル者ガ組合
ヲ造ル、是ガ事實上ノ聯合ヲ造ルト云

フコトヲ、之ニ依テ鎮壓スル譯デモ何デ
モアリマセヌ、實情ニ即シテ事實上利
害關係ノ密接ナモノガ組合ヲ造ルコト
ガ、労働組合ノ自然ノ趨勢デアル、此組
合ヲシテ運動ニ據ルベキ基準ヲ與ヘル
ト云フコトガ本案ノ趣旨ト御諒解ヲ願
ヒタイノデゴザイマス

○清瀨委員 今ノ説明デ私共ハ安心致
シタノデアリマスガ、即チ深い主義深
イ主張デ以テ合同組合ニ反對スルト云
フ意味デハナクシテ、ソナモノモア
ルデアラウケレドモ、先ヅ斯ウシタ方
ガ立法ノ便宜デアルト云フ風ナ程度ト
聞エマス、隨テ私共思フニ第十二條第
三號ニモ「總會ノ決議ニ依リ加入ヲ許
サレタル者」トアリマスルカラ職業別
ノ組合ヲ茲ニ造ッテ紡績職業ノ人ガ一
千人寄ッテ組合ヲ造ッテ居ル、茲ニ二
千人ノ鐵工業者ガ這入リタイト云フ時分
ニ、宜シイト云フノデ一千人ノ多數決
デ決議スレバ、今度ハ鐵工ノ者モ一緒
ニ這入ッテ三千名ノ組合ニナル、ナッテ
シマッタ後ヲ見ルト紡績ノ一千名ト鐵
工二千名ト云フコトニナッテシマフ、十
二條第三號ニナリマス、初メカラシ
テ合同組合ヲ禁ジタト云フ趣意ハ一ツ
モ貫イテ居リマセヌノデ、立法ノ便宜
ト云フ風ナ意味デ産業別職業別ヲ固持
サレテ居ルヤウデアリマスケレドモ、
結局立法ニ不便宜ニナリマスカラ、或
ハ委員會ノ意見ノ多數ニ依テ合同組合
ヲモ便宜トスルト云フナラバ、必ズ御

讓リニナルト思ヒマスカラ、今ノ御答
ハ後日ノ證左トシテ承ッテ置キタイ、ソ
レカラ簡單ナ事デアリマスガ、組合ノ
地域デアル、日本ハ島國デアリマスカ
ラ、餘リ問題ニナラヌカモ知レマセヌガ、
外國ニ居ル組合員ガ這入ッテモ宜イノ
デアリマス、或ハ又外國人デモ宜イノ
デアリマス

會ノ決議ニ依テ加入スルト云フコト
ハ、組合ノ本質ヲ變更スルト考ヘマス
カラ、十二條ノ例外規定ニ依テ、第一條
ノ規定ヲ覆ヘスト云フコトハ想像致シ
テ居リマセヌ、尙ホ外國人ノ問題デア
リマスガ、是ハ御承知ノ通り日本ハ勅
令ニ依リマシテ労働者タル外國人ノ入
國ヲ禁止シテ居リマスカラ、先ヅ此規
定ニ依リマシテ、日本ニハ外國人ノ勞
働者ガナイモノト、斯様ニ認メナケレ
バナラスト考ヘマスカラ、外國人ノ加
入ト云フコトハ豫想シテ居リマセヌ

○長岡政府委員 只今ノ私ノ申上ゲ方
ガ惡カクカ存ジマセヌガ、必ズ御讓リ
下サルト云フコトハ少シク御考違ヒカ
ト思ヒマス、是ハ申ス迄モナク、私共唯
眇タル屬僚デアリマシテ、政府ノ極マ
リマシタ方針ヲ説明スル以外ニ何等權
限ヲ持ッテ居リマセヌ、私ガ當然讓ルト
カ、政府ハ妥協スルト云フヤウナコト
ヲ私ノ口カラ申上ゲベキ筋合ノモノデ
アリマセヌ、尙ホ此十二條ノ三號ニ依
テ「總會ノ決議ニ依リ加入ヲ許サレタ
ル者」トアルノハ、無制限ニ許スカト云
フコトデアリマスガ、是ハ本會議ニ於
テモ、藏園君ノ御質問、又本日栗林君ノ
御意見ノ一端ニモソレガ現ハレマシタ
ガ、是ハ過日内務大臣ガ本會議ノ席ニ
於テ申上ゲタ通り、組合自治ノ爲ニ、知
識階級ノ指導ヲ受ケタイト云フ爲ニ決
議シタ場合ニハ認メテモ宜イノデハナ
イカト云フ單ニ例外的ノ規定ヲ設ケタ
ノデアリマシテ、之ニ依テ一條ノ原則
ヲ覆ヘス意思ハアリマセヌ、只今例ニ
御舉ゲニナリマシタヤウニ、一千人ノ
紡績ノ組合ガ二千人ノ鐵工ノ組合ニ總

○清瀨委員 サウスルト前段ノ千人ノ
紡績組合ガ二千人ノ鐵工組合ノ加入ヲ
承認シタラドウナルカ、ソレハ十七條
デ公益ヲ害スルト云ッテ取消サナイデ
宜イノデアリマス、重大ナ事デアリ
マス

○長岡政府委員 ソレハ第一條ノ規定
ニ違反スルガ故ニ、サウスルト組合ヲ設
ケルナラバ法人トセズシテ事實上ノ組
合トシテ存在シタラドウカト云フコト
ハ、十分懇篤ニ話シマシタナラバ、大抵
問題ヲ起スコトハナカラウト考ヘマス、
○清瀨委員 組合ニナッテ、法人トナッ
テカラ後ノ決議デス、一旦千人デ以テ
紡績ノ組合ガ出來テ、法人デ金ヲ持ッテ
居ル隣リニ鐵工ガ居ルカラ這入レト
云フ——後ノコトデス

○長岡政府委員 其場合ニモ、此鐵工ト
云フコトノ解釋デアリマスガ、御承知
ノ通り産業別ト申シマス、紡績業ナ

ラ紡績業ニ從事シテ居リマスル者デ
モ、糸ヲ紡グ者デアリマシテモ、釜ヲ炊
ク者デアリマシテモ、何ライデル者デ
アリマシテモ這入ッテ差支ナイノデア
リマスカラ、同ジ産業ノ下ニ從事シテ
居リマスル鐵工ナラ何名這入ラウト構
ハヌト考ヘマスガ、全然第一條ノ規定
以外ノ二千人ト云フモノヲ、千人ノ紡
績工ノ中ニ入レルト云フコトハ、第一

ヲ貰ッテ居ル組合ガアル、又證明書サヘ
モ貰ハヌ組合ガアルト云フコトハ事實
デアリマス、是ハ複雜デアリマスガ、勞
働組合ヲ造ラル、以上、大抵ノモノハ
届出ガ出來ルノデスガ、マア、オ前
無届デヤッテ宜カラウト無届組合ヲ造
ルト云フコトヲ豫想サレタル御立案デ
アリマセウカ

理ニ届出ヲ強制スルノデアアリマセ
ヌ、此法律ノ圈外ニ立ツ事實上ノ勞働
組合モ宜イ、決シテ之ニ對シテ當局ハ
繼子扱ヒラヌルトカ、無理ニ強制スル
ト云フヤウナ意思ハゴザイマセヌ
○清瀨委員 洵ニ暢氣ナ御立法ノヤウ
ニ考ヘマスガ、實際ハ此法律ヲ見マシ
テモ、之ニ依タガ故ニ積極的利益ハ些
トモナイノデス、唯此日本ノ勞働者、一
般民モサウデアリマスガ、事大主義ノ
考ヲ持ッテ居ルノデアリマス、其政府ノ
免許ノ組合ト云フ聲ヲ利用スルコトニ
ナルト思ヒマス、今結社ハ自由デアッ
テ、而カモ結社ノ會計ニアル金ヲ持逃
グスレバ横領罪ニナル、英吉利ノ組合
ニスレバ不法ノモノダカラ、其金ヲ取ッ
テモ泥棒ニナラヌト云フヤウナコトハ
誰モ言ヒマス、ソコデ日本ニハ數百ノ
組合ガアルノデアリマスガ、成ベク其
組合法ヲ作ッタ以上ハ、之ニ這入ルコト
ヲ獎勵サレタリ、又組合員ガ希望スル
ヤウナモノデナイト云フト、單ニ組合
員ノ事大主義、官廳役人尊重主義ト云
フ風ナ、同ジ辯護士デモ免許代理人、免
許組合ト云フヤウニ、免許ノ名前ダケ
ヲ欲シテ届出ルト云フヤウナコトハ、
ドウモ折角兩院ヲ煩ハスダケノ價值ハ
ナカラウト思ヒマスカラ、矢張其内容
ヲモウ少シ、私ハ現代的トモ近代的ト
モ申シマセヌガ、今日ノ組合ソレ自身
ニ合フヤウニ、大多數之ニ這入ルヤウ
ニシタイト云フコトノ私ハ希望ヲ持ッ

テ居リマス、今ノ質問ノ中デ一ツ殘ッテ
居ルノハ外國人ガ這入ルカト云フコト
ハ御答ニナリマシタ、外國人ハ少イト仰
シヤッタ、外國ニ居ル勞働者ハ這入リマス
カ、即チ支那ノ勞働者ハ日本ノ勞働組
合ニ這入ッテ宜シイカ、斯ウ云フコトデ
アリマス
○長岡政府委員 私ハ先程少イト云フ
コトヲ申上ゲタ積リデハナカッタノデ
シタガ、現在ノ法令ニ於テハ、勞働者タ
ル外國人ハ入國出來マセヌカラ、日本
ニハ先ヅ外國人ノ勞働者ハ無イモノト
見テ宜カラウ、斯様ニ申上ゲタノデア
リマシテ、更ニ第二段ノ外國ニ居ル、日
本ノ領域外ニ居ル所ノ者ガ這入ッテ居
ルカト云フ問題デアリマスルガ、是ハ
私ノ熟シタ考デハゴザイマセヌガ、此
法律ハ要スルニ地理的ニ日本ノ領土内
ニ行ハルモノデアッテ、國外ニ效力ノア
ルモノデアリマセヌカラ、隨テ亞米
利加ニ居リマスル勞働者ガ加入スルト
云フヤウナコトハ豫期致シテ居リマセ
ヌノデアリマス

○清瀨委員 ソレ以上申上ゲルコトモ
如何ト思ヒマスガ、實際ハ勞働運動ノ
將來ハ、サウ話合ガ付クトハ限ラナイ、
大分鬭爭の氣分ヲ持ッテ居リマスカラ、
イツモ長岡長官ガ長官デ御出ニナルト
至極結構デアリマスガ、サウ云フコト
ハナカラウト思ヒマスカラ、他ノ閣僚ト
相談シテ、審議ヲシタイト思ヒマス、今
ノ御答辯ノ中ニハ、ソレナラ無届デ宜
カラウト云フノデ、サウ云フ風ナモノ
ヲ解散モ命ゼズ、取消モセズシテ無届
デ行クト云フノデスガ、全體此組合ガ、
無届組合ト云フモノガ多數アルコトヲ
承認サレテノ御立案デアリマセウカ、
ソレガ惡イノデ、現ニ英吉利ナドハ登録
シタ組合ト登録セズニ單ニ證明書ダケ

○長岡政府委員 將來ノ豫想デアリマ
スカラ、私ノ見込ト清瀨君ノ御見込ト
違フカモ知レマセヌガ、此法案ガ假ニ
無修正ノ儘兩院ヲ通過シテ法律トナリ
マシタト假定致シマスレバ、大體只今
デハ隨分團體ガゴザイマスガ、内務大
臣モ申上ゲマシタヤウニ能ク誤解ヲ解
イタナラバ、大體本法ニ依ルダラウト
云フヤウナコトデアリマス、殊ニ只今
民法ノ法人トシテ存在シテ居ル組合モ
アリマス、船員組合ノ如キ其他現行ノ
法人トシテ存在シテ居ルモノハ、恐ラ
ク本法ニ依テ勞働組合トシテ届出デ
ト考ヘマス、其他有力ナ團體ガドノ位
之ニ這入ッテ來マスカ、此點ハ只今豫想
ハ付キマセヌガ、先ヅ私ノ見込デハ大
體矢張本法ニ依テ公認サレタ組合ニナ
リタイト云ッテ、誤解ヲ解イテ進ンデ這
入ッテ來ルモノト考ヘマスガ、併シ當局
ノ意見トシテ本法ヲ無理ニ依ラセルト
云フヤウナ意思ハ何モアリマセヌ、ソ
コハ極メテ自由ヲ尊ンデ居リマスカ
ラ、ドウシテモ此法律ノ圈内ヲ脱シタ
イト云フモノガアレバ、是ハ決シテ無

○清瀨委員 是モ解釋ノ問題ニナリマ
スルガ、此儘ナラバ私ハ這入レルト思
フ、法人ハ日本ノ法律デ見タ法人デア
ルカラ、法人ノ所在地ハ日本デア
レドモ、其組合員ガ外國ニ居ルコトハ、
何等差支ナイ、日本ニ在ル株式會社ガ
外國ノ株式ヲ持ッテ居ルモノガ幾ラモ
アリマス、法人ノ理論ヨリシテ、外國在
住者ガ這入レナイコトハ斷ジテナイト

○清瀨委員 是モ解釋ノ問題ニナリマ
スルガ、此儘ナラバ私ハ這入レルト思
フ、法人ハ日本ノ法律デ見タ法人デア
ルカラ、法人ノ所在地ハ日本デア
レドモ、其組合員ガ外國ニ居ルコトハ、
何等差支ナイ、日本ニ在ル株式會社ガ
外國ノ株式ヲ持ッテ居ルモノガ幾ラモ
アリマス、法人ノ理論ヨリシテ、外國在
住者ガ這入レナイコトハ斷ジテナイト

○清瀨委員 是モ解釋ノ問題ニナリマ
スルガ、此儘ナラバ私ハ這入レルト思
フ、法人ハ日本ノ法律デ見タ法人デア
ルカラ、法人ノ所在地ハ日本デア
レドモ、其組合員ガ外國ニ居ルコトハ、
何等差支ナイ、日本ニ在ル株式會社ガ
外國ノ株式ヲ持ッテ居ルモノガ幾ラモ
アリマス、法人ノ理論ヨリシテ、外國在
住者ガ這入レナイコトハ斷ジテナイト

○清瀨委員 是モ解釋ノ問題ニナリマ
スルガ、此儘ナラバ私ハ這入レルト思
フ、法人ハ日本ノ法律デ見タ法人デア
ルカラ、法人ノ所在地ハ日本デア
レドモ、其組合員ガ外國ニ居ルコトハ、
何等差支ナイ、日本ニ在ル株式會社ガ
外國ノ株式ヲ持ッテ居ルモノガ幾ラモ
アリマス、法人ノ理論ヨリシテ、外國在
住者ガ這入レナイコトハ斷ジテナイト

○清瀨委員 是モ解釋ノ問題ニナリマ
スルガ、此儘ナラバ私ハ這入レルト思
フ、法人ハ日本ノ法律デ見タ法人デア
ルカラ、法人ノ所在地ハ日本デア
レドモ、其組合員ガ外國ニ居ルコトハ、
何等差支ナイ、日本ニ在ル株式會社ガ
外國ノ株式ヲ持ッテ居ルモノガ幾ラモ
アリマス、法人ノ理論ヨリシテ、外國在
住者ガ這入レナイコトハ斷ジテナイト

○清瀨委員 是モ解釋ノ問題ニナリマ
スルガ、此儘ナラバ私ハ這入レルト思
フ、法人ハ日本ノ法律デ見タ法人デア
ルカラ、法人ノ所在地ハ日本デア
レドモ、其組合員ガ外國ニ居ルコトハ、
何等差支ナイ、日本ニ在ル株式會社ガ
外國ノ株式ヲ持ッテ居ルモノガ幾ラモ
アリマス、法人ノ理論ヨリシテ、外國在
住者ガ這入レナイコトハ斷ジテナイト

思ヒマス、是ハ矢張政府ハ公益問題或ハ安寧秩序問題デ御取締ニナルノデハナイカト云フコトヲ心配スルカラ聽イテ居リマス、法律ノ解釋論トシテハ此方デ這入レルト極メテ居リマス、唯其場合ニ是モ公益ダ、是モ安寧秩序ダト、斯ウ來ルダラウト思ヒマス、是ハ御互ニ考慮シテ立案シナケレバナラスト思ヒマスガ、ソレカラ外國人ハ禁止シテ居ルカラ、日本ニハ無イト仰シヤルケレドモ、此外國労働者ガ五ツノトキニ船ニ乗ッテ御母サント一緒ニ來タ、サウスレバ外國ノ労働者デアルカラ絶對ニ無イト云フコトハ申セマセヌガ、是モ解釋ノ問題デアリマスルカラ質問ヲ止メマス、政治行動トノ關係ヲ一ツ御聞キ致シテ置キタイノデアリマス、先般或政黨ガ團體單位ト云フ規則ヲ作ッテ、ソレハ違法ダト言ハレタ前例モアリマスルガ、英吉利ノ労働組合ノ發達ヲ見マスルト云フト政治行動ヲ是認スルト云フコトガ、自然發達ノ順序デアッタノデアリマス、即チ労働組合ソレ自身ヲ政黨ト見ルノデハアリマセヌケレドモ、労働者ニ適切ナル法規、例ヘバ工場法トカ或ハ治安警察法トカ、是等ノモノ、撤廢ヲ彼等ガ望ンデ居ルコトハ事實デアル、現ニ各種ノ労働組合ノ綱領ノ中ニモ、宣言ノ中ニモ、多々是ハアルノデアリマシテ、デ前ノ労働條件ノ維持改善ト云フコトダケニナリマスルト、賃銀ヲ上ゲテ呉レ、時間ハ下ゲテ呉レト云フ經

濟運動ダケニナリマスルガ、併ナガラ、工場法ヲ改正スル爲ニ政治行動ヲスル、即チ直截ニ言ヘバソレガ爲ニ組合ノ基金ヲ積ム、サウ云フコトガ矢張禁セラレルノデアリマセウカ、現ニ日本ノ労働運動ノ初期ハ普通選舉運動ト云フコトガ主デアッタノデアリマス、其處ニ居ラレル鈴木君モ吾々ノ普通選舉運動ニ關係致シテ、多數ノ労働團體ハ吾々ヲ應援シタコトモアルノデアリマス、デ今單ニ經濟運動ダケ、労働條件ノ維持改善ト云フコトダケデアッテ、其次ノ條項ニハ共濟、修養其他共同利益ノ保護ト云フコトデアッテ、労働者ノ地位ヲ確保スル法律ノ制定、即チ立法運動ヲスルト云フコトガ禁セラレルカ、ソレカラ進ンデハ、立法ノ手段ニ依テ、今ノ初メ問題ニナッタ資本主義ノ改造、必ズ是ハヤルニ相違ナイ、ソレヲ事ガ矢張此法律案ニ依テハ禁セラレルモノデアラウカドウカ、ソレモ一應承ッテ置キタイト思フノデアリマス

○長岡政府委員 只今御質問ノ問題ハ是モ本會議ノ御質問ニ對シマシテ大臣ヨリ御答ヘ申上ゲタヤウニ記憶致シテ居リマスルガ、労働組合ハ労働條件ノ維持改善其他組合員ノ共同利益ノ保護増進ヲ圖ルコトヲ目的トスルモノデアッテ、政治行動ヲ目的トスルモノデハゴザイマセヌカラ、労働組合ニシテ政綱ヲ掲ゲテ常ニ繼續シテ、治安警察法ノ政社即チ、今日ノ言葉デ申ス政黨トシテ行動スル場合ニハ、是ハ政治結社ニ關スル治安警察法ノ適用ヲ受クベキモノデ、労働組合デハナイト考ヘマスルガ、唯實際問題ト致シマシテ、政治運動ト非政治運動ノ區別ハ、是ハ學理上ニドウ云フ定義ヲ下シマシテモ、實際ニハ餘程曖昧ナモノナノデアリマス、箇々ノ政治運動ト云フコトハ嚴重ニ禁ズルカト言ヘバ、是ハ現在政黨ニ非ザル即チ法律ニ謂フ政社ニ非ザルモノニデモ默認シテ居ル事實ガ澤山アルノデアリマス、例ヘバ大日本醫師會ト云フモノハ、醫事衛生ノ發達ヲ圖ルト云フ目的デアリマセウガ、是ガ矢張藥品法反對ノ政治運動ヲシタコトモアル、又町村長會議ト云フヤウナモノガ、或ハ義務教育費國庫負擔ノ増額ヲ議會ニ運動シタコトモアルト云フヤウニ、非政社、即チ政治結社ニ非ザルモノデアリマシテモ、斷續的ニ政治運動ト常識上看做サル、コトヲシマシテモ、之ニ對シテ治安警察法第八條ニ依テ解散ヲ命ジタト云フヤウナ例モアリマセヌカラ、労働組合ガ繼續シテ政綱ヲ掲ゲテ政黨ト同ジ行動ヲスル場合ニ於テハ、是ハ其政治結社ニ關スル治安警察法ノ適用ヲ受クルヤウニナルノガ至當ト考ヘルケレトモ、労働組合ガ其本來ノ目的ヲ達スル手段トシテ、一時的ノ政治行動ヲスル、或ハ八時間労働ノ實施ヲ議會ニ運動スルトカ、或ハ最低賃銀法ノ制定ヲ請願致シマスルトカ、今日ノ常識カラ見テ、政治運動ト云フヤウナコトヲ箇々斷續

的ニ致シマシテモ——斷片的ニ致シマシテモ、是ハ組合ノ目的ニ反スルトシテ解散ヲ命ズルト云フヤウナモノデハナカラウト思フ、是ハ尙ホ政黨ニ非ザル結社ニ多々事例ノアルコトデアリマスカラ是ト同ジヤウニ取扱フ外ハナイト考ヘテ居リマス

○森田委員長 御相談シマスガ本日ハ是デ散會シマシテ、明日午後一時カラヤリタイト思ヒマス、連日御疲レデアリマセウケレドモ、甚ダ後レテ居ルヤウデアリマスカラ左様願ヒマス、ソレデハ本日ハ是デ散會致シマス

午後三時五十一分散會

大正十五年二月二十五日印刷

大正十五年二月二十七日發行

衆議院事務局

印刷者 民友社